

(案)

ビワイチ推進総合ビジョン

～ 自転車の活用推進による持続可能な地域活性化を目指して ～

平成 30 年 3 月
滋 賀 県

目 次

第1 ビジョンの考え方

第2 目指す姿

第3 基本方針

第4 施策の方向

- ・ 基本方針1
- ・ 基本方針2
- ・ 基本方針3

第5 本ビジョンに基づき県が行う施策について

○ 資料

第1 ビジョンの考え方

現在、全国でサイクリングが盛り上がり、各地で地域の魅力を活かしたサイクルツーリズムが進められています。サイクリング関連のイベントが開催されると広い範囲から数多くの参加者が集まるほか、海外からのサイクリングツアーも増加しています。

滋賀県においては、自転車で琵琶湖一周する「ビワイチ」が人気を博し、サイクリング愛好家の間で「走ってみたいサイクリングコース」として、休日には数多くの方々がサイクリングを楽しむ姿が見られるようになってきており、自転車で琵琶湖1周する方も右肩上がりに増加しています。(推計値：平成27年(2015年)5万2千人、平成28年(2016年)7万2千人、平成29年(2017年)9万5千人)

「ビワイチ」の呼称は、「琵琶湖一周」の略称から始まったと言われています。Web上では平成13年(2001年)に一番古い表記が見られ、自転車もしくはバイク(自動二輪)での琵琶湖一周にも用いられていました。現在は、自転車、バイクの他、ランニング、ウォーキング、ドライブ、鉄道(琵琶湖線・北陸線・湖西線)、バスなど、様々な方法の「琵琶湖一周」に用いられています。

県内では、これまでも小学校の体験学習で電車による「ビワイチ」が行われたり、中学校や高校の卒業記念に「ビワイチ」にチャレンジしたり、あるいは自動車運転免許を取ったらずは「ビワイチ」をされるなど、滋賀県民にとっても「ビワイチ」はとても身近なものとなっており、自転車による「ビワイチ」体験者のおよそ4分の1は滋賀県民自身とのアンケート結果も出ています。

サイクリングは、自動車の速度で見える風景と異なり、自動車やバイクならついつい通過してしまうようなところにも気軽に立ち寄ることができ、目的地に到達した時に得る心地よい疲労感と達成感で心身がリフレッシュされます。

さて、琵琶湖を中心とした自然環境の保全に取り組んできた滋賀県では、二酸化炭素を排出しない環境にやさしい交通手段である自転車の活用促進に向けて、先駆的な取組が進められてきた歴史があります。

昭和48年(1973年)には、全国に先駆けて旧八日市市(現東近江市)で「自転車都市宣言」がなされたほか、県全体でも自転車とエコロジーを掛け合わせた「バイコロジー」推進運動が展開され、並行して自転車利用環境の整備が進められるなど、歴史的にも自転車の利用を促進してきたという経緯があり、現在も、各地で自転車利用推進の取組が行われています。また、平成28年(2016年)2月には、「滋賀県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」が施行されました。

自転車は、単に環境にやさしい身近な交通手段であるというだけでなく、今や国民的課題となっている生活習慣病の予防・改善など、健康増進に効果が期待できる乗り物でもあります。

豊かな自然環境や独自の生活文化に恵まれ、健康長寿県とされる滋賀県での県民自身によるサイクリング文化の拡大は、県民自身が改めて国民的資産である琵琶湖およびそこに息づく文化や暮らしなど、滋賀の奥深い魅力を再発見することにもつながるほか、健康増進に向けた象徴的な取組としても有意義です。

こうしたことをふまえ、本ビジョンでは、特に自転車による「ビワイチ」のほか、内陸部を周遊する「ビワイチ・プラス」について、安全・安心に周遊できる環境整備や地域の魅力づくり、県内外への発信、県民自らサイクリングを楽しむ未来を創り上げるために共有する取組の方向性を示し、交流人口の増加、琵琶湖をはじめとした環境保全、県民自身の健康増進を通じた地域の活性化を目指します。

本ビジョンは、自転車による周遊の目指す姿を描く物語から始まります。続いて実現に向けた基本方針および、施策対象を明確にした上で、施策の方向を記載しています。本ビジョンを基に、県民の皆さんや事業者、関係団体、自治体と共通認識のもと、自転車の活用推進による持続可能な地域活性化に向けた取組を進めていきたいと考えます。

※本ビジョンでは、サイクリングの盛り上げりを県全体で活かしていくという趣旨から、自転車によるびわ湖一周「ビワイチ」だけではなく、内陸部を周遊するコースを「ビワイチ・プラス」として並行して推進していくこととしています。

第2 目指す姿

観光客を含むサイクリスト、自動車運転者、歩行者等が互いに尊重し合い、共存する環境の中、国内外から多くの方々が来訪し、安全で快適に自転車による県内周遊（「ビワイチ」「ビワイチ・プラス」）を楽しんでいるとともに、地域の豊かな自然や文化、食、人とのふれあいを通じて県全体が活性化され、県民自身も自転車で県内周遊を楽しんでいる。

近年、大きな盛り上がりを見せているサイクリングを活かした県全体の活性化に向けて、限られた道路空間を様々な利用者がシェアし合える走行環境づくり、ルールとマナーの啓発を進めるとともに、琵琶湖岸（「ビワイチ」）だけではなく、内陸部を含めた自転車による県内周遊（「ビワイチ・プラス」）推進に向けた観光資源の魅力向上や情報発信を進める中で、周遊する方々が自転車に乗ることだけを楽しむだけではなく、自然、文化、食など県内にある様々な魅力や人とのふれあいを通じて、県全体が色々な面で活性化していくことを目指すものです。

また、県民自身が琵琶湖一周を身近に感じているという県民性の中で、自転車で県内を周遊することを通じて、県民自身が改めて滋賀の魅力を再発見するほか、「環境の保全」への意識醸成や「健康の増進」を目指します。



○ 思い描く将来の「ビワイチ」体験者の姿

将来こんな「ビワイチ」を実現していきたい「目指す姿」の具体像を、次のとおりストーリーとして示します。

（県外の人）

「ビワイチ」はサイクリストでは知らない人はいない^{（方針1）}。坂道が少なく、他のどこにもない広い湖と山と空の風景は、来た人を裏切らないクオリティ。雑誌やインターネットなど様々な媒体で多く情報が発信され^{（方針1）}、友人や知人の評価も高い。



滋賀に行くときサイクリストだけでなく、日常的に自転車を利用する人が多く見られ、サイクリストならずとも滋賀県で自転車に乗りたい、と感じるようになってくる。そんな雰囲気になられ、5回目の「ビワイチ」に向かう^{（方針1）}。

新幹線で米原駅に着いた。「ビワイチ」は半年ぶり。米原駅には、駅直結でスポーツタイプの自転車が借りられるレンタサイクルの施設^{（方針2）}がある。今日借りる自転車は滋賀県内で作っているハンドメイド自転車^{（方針1）}。滋賀県らしいサービスとして、「ココクール マザーレイク・セレクション」に選定されたレンタサイクル^{（方針2）}だ。



滋賀にはここだけでなくスポーツタイプの自転車が借りられるレンタサイクル施設が何カ所もあり、電動アシスト車等様々なタイプ自転車も借りられるそう^{（方針2）}だ。

レンタル自転車施設では、手早くフィッティングをしてもらいながら、お勧めのコース情報、立ち寄りスポットへの行き方、工事中で片側通行になっている箇所を注意して通らなければいけない場所等の話を聞くことができた^{（方針2）}。事前には調べてきたけど、こんないい所が滋賀にはあったとは思わず、さらに交通情報まで聞けたことは大変有り難かった。

最後に、県内を自転車で走る時に守ってほしい「ビワイチルール」について改めて説明を受ける^{（方針2）}。基本的な交通ルールだけでなく、「地域の人や他のサイクリストにはあいさつをしよう」といった、周りの人とよい関係を築くためのマナーや心得も定められていて、聞くたびに「きちんと守ろう」と心がけている。

今回はいろいろ寄り道をしながら2泊3日。「ビワイチ」に関する相談窓口が
あって (方針1)、何でも教えてもらえる。ゆっくり桜を観るなら行程に余裕を持た
 せた方が良いというアドバイスをもらったので、2日の予定を3日に延ばした。
 宿情報のほか、楽しそうな立ち寄りスポットをいくつも教えてもらった。

さあ、いよいよ出発。湖岸まで行ってみると、
多くの様々なサイクリストがビワイチを楽し
 んでいる (方針3)。ロードバイクが車道を颯爽と走
 っている。シティサイクルの親子連れやシニア
 カップルは、自転車が行き通じる歩道をゆっく
り楽しんでいる (方針2)。



路面に表示されている青矢羽根に従って進めば迷うこ
 となく進むことが出来るし、所々に距離標があって、今
 の位置と次の目標まであとどれくらいなのかが分かりや
すい (方針2)。

時々、自動車に追い越されるが、こちらに思いやっ
 て幅をあけて追い抜いてくれる (方針2)。こちら、仲間とグ
 ループで走るときは、長い列にならないよう十分に気
 をつける (方針2)。そして、信号を守り、左側通行。当たり前
 のルールとマナーで「ビワイチ」は支えられている (方針2)
 と思う。



桜並木が続くところに来た。自動車で走
 っていると気付かなかったが、ここの桜は
 素晴らしい (方針3)。通り抜けると、ビオトー
 プが現れた。ここでは琵琶湖の生態系を豊
 かにする取組が行われているとのこと。ボ
 トルに入れたお茶でのどをうるおしながら、
 ヨシや魚を眺めていると、琵琶湖を守りたい
 気持ちがわいてくる (方針3)。



昼食予定のレストランに到
 着。事前に入手したサイクリ
 ングマップとダウンロードし
 たアプリが道案内をしてくれ
 たので、迷わず着いた (方針2)。
サイクルラックに自転車を置
 き、ボリュームたっぷりのサイクリストメニュー (方針1)



をオーダー。出てきた料
 理は新鮮な琵琶湖の幸や滋賀県産の野菜がたっぷりのここでしか食べられない
メニュー。SNS用に写真を撮影。 (方針1)。地元の食文化に触れられて大満足。

レストランには「ビワイチ」ロゴマークが見えるお土産販売コーナーがあり、地元の農産物やお酒などが売られていた（方針 1）。自転車だと荷物は増やせない。だけど、ここでは自宅への宅配だけでなく、指定すれば今夜の宿にも送ってくれる（方針 1）とのこと。今日泊まるホテルに地酒を送った。今夜ゆっくり飲もう。

食後は、琵琶湖岸を離れて文化財巡り（方針 1）。自転車だと国宝が安置されているお寺の周りの何ともいえない雰囲気を楽しめる。滋賀県人は「どこにでもある」というけれど、神社とお寺のある村は都会にはない。この前、一緒にサイクリングしたドイツの留学生は「これが本当の日本」と繰り返しつぶやきながら写真を SNS にアップしまくっていた。



文化財巡りの途中、村の雰囲気を楽しみながら自転車を押して歩いていると、農作業をしていた地元のお年寄りが話しかけてくる（方針 3）。「県外から来た」と言うと、村の歴史や水とつながった生活文化の話面白く聞かせてくれた。この人もサイクリストで毎週 1 回は近所を走っているそうだ。お孫さんも自転車に乗っていて（方針 3）、自転車に乗っている人がみんな他人とは思えないらしい。

途中で休憩中の女性グループから、近くの和菓子屋さんに名物があることを教えてもらい、寄ることにする（方針 3）。彼女たちはレンタサイクルで「ビワイチ」中で、今日の自転車は途中返却し、また来週に続きを走りに来るという。



ゆったりと寄り道をし過ぎて、予定していた出発時間を大幅に過ぎてしまった。陽のあるうちに宿に着くのはしんどい感じ。しかし少し先の港から船に乗れば、夕陽を見ながらショートカットできるみたいだ（方針 2）。早速港に電話して予約。湖の風を浴びながら宿に近い港へ。



宿に着くと、自転車を押して宿の中へ（方針 3）。レンタサイクルとはいえ、最大の旅の友を屋外に置いてはおけない。ここはサイクリスト向けのサービスを提供しているお勧めの宿（方針 1）。今日はオーストラリアや台湾、イギリスなど海外のサイクリストが多いらしい。ロビーは本当にインターナショナル。



夕食後、ロビーでイギリスから来られたサイクリストと話す（方針 1）。日本各地

のサイクリングコースを順番に回っているらしい。イギリスでも日本へのサイクリングツアーは人気で、「ビワイチ」は WEB などでダイレクトに情報が発信されていて、^(方針 1) 特に人気があるらしい。

今回は大津から ガイド同行のツアーで琵琶湖につながる河川の上流にある棚田や里山の風景を楽しみながら走ってきた ^(方針 1) のこと。ガイドは英語で沿道のスポットや風景について分かりやすく説明してくれるので、とても人気があるとのこと。明日は琵琶湖岸を走り、ウォータースポーツ体験もするらしい。



このツアーでは、休憩ごとに飲物やお菓子を出してくれるし、時には必要に応じ、交差点で安全に誘導もしてくれる。もちろんパンクなどのトラブル対応も万全であった ^(方針 1) のこと。

今日の行程を無料 Wi-Fi を使って SNS にアップした ^(方針 1) 。すると多くの友達から反応があり、次回、一緒にサイクリングして、その景色を見たいという声が届いた。今日は 日本最大の湖である琵琶湖、その大きさや素晴らしさを肌で感じた一日 ^(方針 1) だった。



(文章中の下線部は、P12 に記載している基本方針とのつながりを表したものです。)

（県内の人）

守山のサイクリスト聖地碑を自転車で仲間と一緒に出発。友人に誘われてはじめて自転車。琵琶湖 1 周する体力はまだないけど、風を浴びるサイクリングは大好きだ。たいていの運動は苦手だったが、健康にも良い自転車に乗るのは抵抗がない（方針 3）。Web で初心者向けのサイクリングコース情報も見ようになった（方針 3）。最近ではしばらく自転車に乗らないと落ち着かず、通勤に自転車を使うようになった（方針 3）。



昔、小学校では電車で琵琶湖を 1 周するという体験学習があったし、運転免許をとった時の最初のドライブは琵琶湖一周だった。琵琶湖を巡るのは滋賀県民の心に刻まれた「文化」といってもいいように感じている。

自転車に乗り始めて、最初は湖岸を走っていたが、最近は内陸部を走ることが増えてきた。今まで気付かなかった美しい田園風景も多く、今ではお気に入りのサイクリングコースのひとつになっている（方針 3）。しばらく湖岸を走った後、古い町並みをポタリングして、その後は里山を巡る予定。ビワイチ・プラスにも位置づけられているコース（方針 1）だ。



湖岸から内陸部に入ろうとした時、今年も「魚のゆりかご水田プロジェクト」と書かれたのぼりを発見した。このプロジェクトでは、湖魚が琵琶湖と田んぼを行き来できるよう水路に魚道を設置し、湖魚が産卵、成育できる水田環境を取り戻す取組をされており、化学合成農薬や化学肥料の使用量を通常よりも 5 割以下に減らすなど環境にも配慮した「環境こだわり農業」にも取り組まれている。自然環境や琵琶湖を守る、滋賀県民として誇れる素晴らしい取組だ。今年もここでとれたお米を購入し、食べることで、琵琶湖を守っていききたい（方針 3）。



湖岸を離れ、見渡す限りの麦畑のど真ん中に来た時、まさかのトラブル発生。同行の友人の自転車がパンクした。全員、予備のチューブの持ち合わせがなく、一瞬、途方にくれかけたが、自転車を乗せてくれるレスキュータクシーがあることを思い出し、電話でお願いすると来てくれた（方針 2）。

サイクルサポートステーション^(方針1)にもなっているスーパーまでタクシーで移動した。タイヤに合ったチューブが置いていたので購入し、サポートステーション備付けの自転車用の工具を借りて修理。居合わせたサイクリストの助けを借りてクリアしたが、事前にダウンロードした「ビワイチ」アプリからでも、パンクをした場合等のトラブル解決情報を見ることができるので安心だ^(方針2)。



トイレもすませて再スタート。だいぶ予定より出発時間が遅れたので、最寄りの駅まで走り、電車で自転車を乗せて移動する^(方針2)。

次の駅で自転車と共に降りて旧街道を走る。ここの旧街道は歩行者と自動車と一緒に通る道だ。すれ違う人の優しい視線。ドライバーもみんな笑顔だ。お互いがルールとマナーを守っている^(方針2)。また、旧街道を自転車で走っていると、自分が江戸時代の武士で、早馬に乗っているような錯覚に陥る。自転車に乗ると、県内には素晴らしいものがたくさんあることに改めて気付かされる^(方針3)。自転車の速度で走ると、自動車で見える風景と異なる新たな気付きがあり、気になったところへ気軽に立ち寄れるのが良い。



旧街道沿いにある酒蔵を見学。地元でおいしい日本酒を造っているところがたくさんあることも自転車に乗り始めてから知った^(方針3)。サイクリングの途中で酒は飲めないなので、仕込用のお水を試飲。酒蔵では、定年後に手軽な運動として自転車に乗り始めたという方から話しかけられる。県外からお孫さんを連れて時々泊りがけで滋賀県でのサイクリングを楽しんでいる^(方針1)とのこと。お孫さんが大きくなったら日本酒で乾杯するのが夢だと話してくれた。買ったお酒は自宅へ送ってもらった。

再び湖岸に出る。以前は、自転車では走りにくいと感じたところも、整備が進み、走りやすくなっていた^(方針2)。

湖岸にある公園のあずまやで休憩。女性3人組の先客がある。湖岸沿いのビワイチコースは坂道が少なく、最近特に女性に人気だそうだ^(方針1)。「ビワイチ」といえば男性ばかりというイメージだったが、ずいぶん変わった。3人は滋賀県の健康長寿を支えるといわれる「発酵」文化を訪ねる旅の途中^(方針1)で、半日だけビワイチ体験をしているとのこと。



少しすると、サイクルウェアを着用したサイクリストと出会う。少し先にサイクリストが集まるカフェがあるらしく、その常連だそう。そこでは、自転車好きのマスターを囲んで、自転車談義が盛んで、店主催のイベントも頻繁にあること^(方針 3)。ベテランの人だけでなく初心者も気軽に入れて、自転車の楽しみ方やメンテナンスの仕方なんかを教えてくれるそうだ。

自分の住んでいる地域では、時々地元の自転車好きが中心となってサイクリングイベントを開いている。県外からの参加もあるが、どちらかといえば親子連れなど地元の人が多い^(方針 2)。自転車で通勤や通学する人も増えて来た印象がある。私も最初は友人からイベントへ誘われて自転車を始めた。それがきっかけで普段の生活でも自転車利用が増え、だんだん体が軽くなってきた実感が出てきた。



琵琶湖を眺めていると、ヨシ原を渡ってくる優しい風を感じた。ふと、子どもの頃友だちと懸命に自転車で走った懐かしい思い出が頭をよぎった。変わらぬ恩恵を与えてくれている琵琶湖に、感謝の気持ちが自然にわいてくる^(方針 3)。最近、サイクリスト仲間のひとりが琵琶湖の清掃イベントを始めた^(方針 3)。自分も参加しようかと思っている。

(文章中の下線部は、P12 に記載している基本方針とのつながりを表したものです。)

第3 基本方針

目指す姿の実現に向けて、以下の3点の基本方針とします。

基本方針1

国内外に向けたサイクリングブランド「ビワイチ」の確立および観光・地域経済の振興につながる仕組みづくり

基本方針2

サイクリストから自転車初心者まで、安全かつ気軽にサイクリングを楽しめる環境づくりや「ビワイチルール」の意識づけ

基本方針3

県民自身が自転車で県内を周遊することで「地域の魅力再発見」「環境保全意識の醸成」「健康の増進」等につながる取組の推進

これら基本方針のもと、様々なデータを基に、次の施策対象層を想定し、取組の方向性を示します。

<施策対象層>

[A]県内各地を自転車で楽しむ方（概ね1日で20km～70km程度走る方）

体力等に応じ、「自転車」と「旅」の様々な楽しみのニーズを有する方。「安全」を大前提に「ビワイチ・プラス」や「案内の充実」、「様々な交通機関との組み合わせの提案」、「サポート拠点整備促進」等を施策の重点に据える。

→ 自転車の楽しみ方のバリエーションをより深く知ってもらい、継続して滋賀県におけるサイクリングの楽しさを広げていく

[B]地域の周遊に自転車を活用する方（概ね1日で2km～20km程度走る方）

観光地など目的地までの移動に自転車を活用する方。「気軽に自転車を利用できる環境」や「散策による地域の魅力発見」等を施策の重点に据える。

→ 日常利用から地域周遊まで自転車で楽しめる範囲を広げていく

[C]琵琶湖一周体験を楽しむサイクリスト（概ね1日で70km以上走る方）

「琵琶湖一周の達成」を核とするサイクリング愛好者など。特に「安全」と「ルール・マナーの遵守」「立ち寄り推進」を施策の重点に据える。

→ ただ走るだけではなく、どんどん寄り道してもらい、滋賀県の奥深い魅力に触れていただく

第4 施策の方向

対象層に応じた施策の方向性を整理した具体的な取組（例）は以下のとおりです。

基本方針 1 国内外に向けたサイクリングブランド「ビワイチ」の確立および
観光・地域経済の振興につながる仕組みづくり

項目	具体的な取組（例）	対象層※		
		A	B	C
「ビワイチ」サイクリングのブランド化	・ 下記等の取組を通じた「ビワイチ」サイクリングブランドの構築	◎	◎	◎
国内外に対する「ビワイチ」による観光誘客	・ ターゲットに応じたプロモーション ・ サイクリングを組み込んだ旅行商品の開発販売 ・ 海外に向けたプロモーションや多言語での魅力発信	◎	◎	○
宿泊施設や観光施設等でのサイクリスト向けサービスの充実	・ 自転車宅配サービス、手荷物当日配送サービスの提供 ・ サイクリスト向けサービスの充実 ・ 多言語での案内等の充実	◎	◎	◎
目的地となるコンテンツの魅力向上	・ 立ち寄りスポットの掘り起こし ・ 受入環境の整備（自転車駐輪スペースの確保等）	◎	○	○
立ち寄り観光や内陸部へのサイクリング推進	・ 「ビワイチ」をはじめ、県内でゆっくりサイクリングを楽しむ「ビワイチ・プラス」の提案	◎	◎	○
地域資源を活かした「ビワイチ」商品の開発	・ 「ビワイチ」ロゴマークを活用したサイクリスト向けの「滋賀ならではの」商品開発・販売	◎	○	◎
サイクリングツアーガイドの育成・情報交流	・ 利用者ニーズに応じたガイド養成講座（安全誘導、観光案内、多言語対応等）の実施 ・ サイクルツアーガイド同士が情報交流し向上できる機会の創出	◎	○	◎
サイクリストの受入体制および休憩拠点の整備促進	・ トイレや空気ポンプの無料貸し出しなどサイクリストをサポートするサイクルサポートステーションや休憩拠点、無料Wi-Fi等の整備促進	◎	○	○
サイクリングに関する総合窓口の設置	・ 新たな組織の形成による推進体制の確立	◎	◎	◎

※[A]県内各地を自転車で楽しむ方（概ね1日で20km～70km程度走る方）

[B]地域の周遊に自転車を活用する方（概ね1日で2km～20km程度走る方）

[C]琵琶湖一周体験を楽しむサイクリスト（概ね1日で70km以上走る方）

該当する対象層に「○」、「◎」は優先

基本方針 2 サイクリストから自転車初心者まで、安全かつ気軽にサイクリングを楽しめる環境づくりや「ビワイチルール」の意識づけ

項目	具体的な取組（例）	対象層※		
		A	B	C
ルール・マナー遵守にむけた取組	・ 自転車安全利用五則をはじめとする法規遵守の一層の呼びかけ ・ 県内でサイクリングする際に守るべきルールと推奨されるマナーの発信とドライバーへの啓発	◎	◎	◎
自転車走行空間の確保	・ 限られた道路空間を様々な利用者がシェアし合える道路環境の整備 ・ コースの維持管理（草刈り等）	◎	◎	◎
安全・安心な走行を支援する案内情報提供（地点・ルート）	・ Web やスマートフォンアプリ、サイクリングマップ等を活用したルート案内 ・ 誰もがわかりやすい案内表示の充実	◎	◎	○
様々な交通機関との組み合わせ推進	・ 公共交通機関（鉄道、バス、タクシー、船等）との連携	◎	○	○
トラブル時の相談や対応体制づくり	・ サイクルレスキュー体制の構築、充実	◎	◎	○
様々なニーズに対応できるレンタル自転車の充実促進	・ 県内のレンタル自転車施設の情報収集、発信、設置促進 ・ タンデム自転車、電動アシスト自転車など様々なタイプの自転車貸出しの検討	◎	○	○

※[A]県内各地を自転車で楽しむ方（概ね1日で20km～70km程度走る方）
 [B]地域の周遊に自転車を活用する方（概ね1日で2km～20km程度走る方）
 [C]琵琶湖一周体験を楽しむサイクリスト（概ね1日で70km以上走る方）
 該当する対象層に「○」、「◎」は優先

基本方針 3 県民自身が自転車で県内を周遊することで「地域の魅力再発見」
「環境保全意識の醸成」「健康の増進」等につながる取組の推進

項目	具体的な取組（例）	対象層※		
		A	B	C
県民自らの自転車日常利用の促進	・ 日常利用、自転車通勤事例など自転車情報の情報発信	◎	◎	◎
自転車散策による地域の魅力発見と発信	・ 自転車散策の魅力発信 ・ 初心者向けサイクリング体験コースの紹介 ・ 写真撮影スポットの情報発信	○	◎	
サイクリング体験機会の創出	・ 地域住民による目的地となるスポット、休憩場所等の掘り起こし、情報発信 ・ 参加者ニーズに応じた気軽に参加できるイベントの開催	○	◎	○
サイクリストとコミュニケーションが生まれる環境づくり	・ 自転車利用者から走行時に会う地元住民への挨拶推奨 ・ サイクルサポートステーションなど自転車利用者とコミュニケーションする場の設置促進	○	○	◎
サイクリングに関する健康情報の発信	・ サイクリングによる健康づくり促進に向けた情報発信	○	◎	
環境保全意識を醸成する取組	・ 「ビワイチ」や「ビワイチ・プラス」による自然とのふれあいの推進 ・ 滋賀の自然や食、暮らし等を体験するサイクリングツアーの開催 ・ 普段走行しているサイクリングコース周辺（琵琶湖、河川、道路等）の美化活動への参画	○		◎

※[A]県内各地を自転車で楽しむ方（概ね1日で20km～70km程度走る方）

[B]地域の周遊に自転車を活用する方（概ね1日で2km～20km程度走る方）

[C]琵琶湖一周体験を楽しむサイクリスト（概ね1日で70km以上走る方）

該当する対象層に「○」、「◎」は優先

第5 本ビジョンに基づき県が行う施策について

県が行う本ビジョンに基づく施策については、各主体との連携を図りながら、下記のとおり推進するとともに、毎年進捗状況を確認します。また、「滋賀県「観光交流」振興指針アクションプラン」等の分野計画で設定された施策でもあることから、適宜見直すことを通じて、より効果的な事業の展開を図っていきます。

基本方針1 国内外に向けたサイクリングブランド「ビワイチ」の確立および観光・地域経済の振興につながる仕組みづくり

- 自転車で琵琶湖一周する「ビワイチ」のほか内陸部へ県内各地を周遊する「ビワイチ・プラス」を安心・安全に楽しめるコンテンツとして確立させます。
- また、琵琶湖を中心に県内各地にある多様な資源を活かして県内全域への自転車による周遊観光を推進することを通じて、国内外からの来訪促進をはかり、地域活性化へつなげていきます。
- 本ビジョンの具体的な推進は、県庁内で部局横断の連携が求められることはもとより、市町や関係団体、事業者の方々、公共交通機関、県民の方々等と連携しながら一体的に取組をすすめることが不可欠となります。効果的なビワイチ推進に向けて、早急に新たな組織を形成するなど、推進体制の確立を目指します。

（主な取組）

- ・ Web、スマートフォンアプリ、サイクリングマップなど様々な媒体を通じた自転車による県内周遊の推進
- ・ サイクルツーリズムの魅力発信によるインバウンド推進
- ・ 地域資源を活かしたサイクリスト向け商品開発の促進に向けた取組
- ・ 「ビワイチ」ロゴマークの活用に向けた取組、情報発信
- ・ サイクリングツアーガイドの養成
- ・ 「ビワイチ」サイクルサポートステーション等の設置促進
- ・ 効果的なビワイチ推進に向けた推進組織の形成



サイクルツアーガイドの養成



サイクルサポートステーション講習会の開催

基本方針 2 サイクリストから自転車初心者まで、安全かつ気軽にサイクリングを楽しめる環境づくりや「ビワイチルール」の意識づけ

○自転車は、身近な移動手段であるがゆえに、車両という認識が薄くなりがちであり、車道や歩道等において、関係法令を遵守しない危険な利用が見られること等から、より一層、自転車の安全な利用および、自動車・歩行者との共存に向けた取組を図っていきます。

○このため、「滋賀県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例（平成 28 年 滋賀県条例第 1 号）」に基づき、誰もが安全で快適にサイクリングできるように、危険箇所の注意喚起や路面表示等によるわかりやすいルート案内などの安全対策を速やかに行うとともに、段差解消や草刈など、こまやかな維持管理によって心地よい走行環境を確保します。また、既存の道路用地を活用した自転車走行空間のモデル整備に取り組み、歩行者・自転車・自動車が共存できる道路環境整備を進めるとともに、交通安全に関する教育・啓発を通じて、交通安全の意識の向上や事故への備えを進めます。

○また、初心者をはじめ、無理のないサイクリングを楽しめるよう、公共交通機関（鉄道、バス、タクシー、船等）との連携や、安心して利用できるレンタサイクルの設置促進等の環境づくりを進めます。

（主な取組）

- ・ 県民に対する、または学校における自転車交通安全教育の実施
- ・ 自転車損害賠償保険等への加入促進に向けた取組
- ・ 自転車の安全で適正な利用の促進に向けた必要な広報および啓発
- ・ 公共交通機関（鉄道、バス、タクシー、船等）との連携
- ・ 安全・安心なレンタサイクル等の普及促進
- ・ 道路環境の整備（矢羽根による路面表示、路肩拡幅等の整備、湖周道路の除草等）



自転車走行空間整備
（矢羽根による路面表示）



自転車利用者への安全指導



公共交通機関との連携

○植樹帯撤去 → 自転車誘導路



路肩拡幅等の整備

基本方針 3 県民自身が自転車で県内を周遊することで「地域の魅力再発見」
「環境保全意識の醸成」「健康の増進」等につながる取組の推進

- 県民自身による県内の自転車周遊を推進し、これまで気付かなかった地域の魅力に改めて気付き、地域を誇りに思い、大切にしようとする心の醸成を目指すとともに、「+cycle（プラス・サイクル）」構想により、自転車の日常利用推進につながる取組を併せてすすめることで、世界共通の目標である SDGs にも掲げられている「経済成長と環境保全が両立し、誰一人取り残さない持続可能な共生社会の実現」にむけた取組への発展を目指します。
- 「ビワイチ」を通じ、楽しみながら琵琶湖に関わることで、琵琶湖の価値を再認識し、もって琵琶湖の保全や再生に向けて主体的に行動を起こすことができる人材を育てるという観点からも、「ビワイチ」による自然とのふれあいを推進します。
- また、県民の健康寿命の延伸を目指し、運動習慣者の割合の増加や運動しやすいまちづくりの推進に努めていきます。

（主な取組）

- ・「+cycle（プラス・サイクル）」構想※1の検討・実施等に向けた滋賀プラス・サイクル推進協議会の構成員としての参画
- ・「ビワイチ」や「ビワイチ・プラス」を通じた自転車の普及・自転車に乗りやすい環境づくりの推進
- ・琵琶湖ならではの食文化や自然と共にある暮らしなど地域資源とサイクリングをつなぐ機会の創出
- ・「ビワイチ」や「ビワイチ・プラス」を通じた環境人材の育成、環境保全の推進
- ・「ビワイチ」や「ビワイチ・プラス」等のサイクリングコース周辺（琵琶湖、河川、道路等）の美化活動への参画推進
- ・県民の健康づくりのための活動の創出、県民の健康づくりにつながる健康情報や取組方法の発信

※1 「+cycle（プラス・サイクル）」構想

個人の私的な移動手段としての役割に限定されていた自転車に対して、単なる公共交通との連携だけでなく、その役割を見直し、新しい価値と公共性を付与していくことで、自転車を地域における公共交通体系のひとつとして位置づけていくこと。

県によるビワイチ環境整備

●安全で快適な道路環境の整備

矢羽根型路面表示



自転車走行エリア明示 134.8km

矢羽根型の路面表示を平成30年度までに整備します。青矢羽根をたどればビワイチ初心者でも迷わずに走ることができ、自転車の走行場所を確保しつつ、ドライバーへの注意喚起を促すことができます。

自転車走行空間の確保



走行空間モデル整備 3地域

限られた道路空間において、多くのサイクリストと歩行者や自動車が安全に道路を共有できるモデル整備に取り組みます。

※走行空間モデル整備については、国の自転車活用推進計画（法定計画）に基づき、県の整備計画を見直す予定。

休憩拠点整備



休憩拠点整備 7箇所

ビワイチルート沿いの緑地公園内にサイクリストの交流拠点となる東屋などの休憩施設を整備します。

ICTを活用した情報提供

アプリを活用し、道路施設と連動した誘客推進

- ・地図アプリと連動した道案内、情報配信
- ・ビーコンを活用した周辺情報の配信
- ・サイクリングをしている方の記念写真を自動撮影
- ・カウントセンサーによる走行情報の収集

内陸部への誘客

- ・「ビワイチプラス」コースの選定とマップでの情報発信
- ・案内看板設置やアプリでの発信等による立ち寄り先情報の配信

<参考>国管理区間については、すでに管理区域全區間に矢羽根型路面標示の整備が完了しているほか、高島市鶴川地先では自転車歩行者道の路面改良を実施済みです。

全長192.8km

県管理区間 134.8km

(うち大規模自転車道 12.7km)

国管理区間 7.5km

市管理区間 50.5km



【撮影カメラ】
景色と走行中のサイクリストを自動撮影



【台数カウントセンサー】

走行地点・台数情報をステーション等へ配信



資 料

1. ビワイチ推進総合ビジョンの策定に向けた検討経過
 - (1) 関係者等への意見聴取状況
 - (2) 意見交換・ヒアリング等の主な意見
 - (3) 海外事例（ドイツ）からの示唆
2. 「ビワイチ」に係るこれまでの取組
3. ビワイチ推進総合計画検討懇話会設置要綱
4. 滋賀プラス・サイクル推進協議会規約
5. アンケート結果
6. ビワイチ推進総合ビジョン 用語解説

1. ビワイチ推進総合ビジョンの策定に向けた検討経過

本ビジョン策定に向け、下記のとおり行った意見交換やヒアリング等をふまえ、目指す姿を描きました。

(1) 関係者等への意見聴取状況

○ビワイチ推進総合計画検討懇話会

自転車で琵琶湖を一周する「ビワイチ」を核に、観光振興、交流人口の増加による本県の認知度向上や地域活性化（地方創生）につなげるため、自転車の走行環境整備・交通システム整備・観光施策等をはじめ、様々な分野が一体となって「ビワイチ」を推進していく方向性を示す指針を策定することとし、経済団体や民間団体、市町等の様々な主体が参画する「ビワイチ推進総合計画検討懇話会」を設置し、幅広い意見・助言を頂いた。

①第1回 平成29年8月22日

- ・「ビワイチ」を取り巻く環境やこれまでの取組等にかかる情報共有
- ・「ビワイチ」推進に向けた意見交換

②第2回 平成29年11月21日

- ・「ビワイチ」の推進に向けて
- ・「(仮称)ビワイチ推進総合計画」の骨子(案)について

③第3回 平成30年2月5日

- ・ビワイチ推進総合ビジョンの原案について

○行政機関

県内市町（19市町：観光・道路部局）との意見交換を行った。

①第1回 平成29年9月12日

- ・「ビワイチ」を取り巻く環境やこれまでの取組等にかかる情報共有
- ・「ビワイチ」推進に向けた意見交換

②第2回 平成30年1月26日

- ・ビワイチ推進総合ビジョンの原案に対する意見交換

○県民

(意見交換)

①第7回マザーレイクフォーラムびわコミ会議 2017

日時：平成29年8月26日

主催：マザーレイクフォーラム運営委員会／滋賀県

②滋賀県立大学のカリキュラム（講座名：環境政策デザイン論・演習）の活用

日時：平成29年10月17日

③「自転車と暮らす滋賀」を考える意見交換会

日時：平成29年11月17日

主催：一般社団法人輪の国びわ湖

④第8回 輪学 2017

日時：平成30年2月14日

主催：一般社団法人輪の国びわ湖

(ヒアリング)

①サイクリングを行っている人へのヒアリング

日時：平成 29 年 9 月 18 日

場所：道の駅みずどりステーション

②地域住民へのヒアリング

日時：平成 29 年 11 月 3 日

場所：マキノ公民館

(アンケートの実施)

①県政モニター制度を活用したアンケート（平成 29 年 7 月分）

②日本最大級のスポーツ自転車フェス「サイクルモードインターナショナル 2017」でのアンケート

日時：平成 29 年 11 月 3 日～5 日

場所：幕張メッセ

○事業者等

①滋賀県商工会議所連合会、滋賀県商工会連合会を通じて、平成 29 年 8 月～11 月にかけて、県内の各商工会議所および商工会等と意見交換を行った。

（意見交換先 内訳） ※実施順に記載

彦根商工会議所、米原市商工会、豊郷町商工会、多賀町商工会、甲良町商工会、稲枝商工会、愛荘町商工会、瀬田商工会、野洲市商工会、大津北商工会、長浜北商工会、東浅井商工会、守山商工会議所、近江八幡商工会議所、安土町商工会、高島市商工会、大津商工会議所、草津商工会議所、八日市商工会議所、長浜商工会議所

②公益社団法人びわこビジターズビューローを通じて、会員（宿泊施設等）と意見交換会を 2 回（長浜会場、大津会場）実施した。

日時：平成 29 年 10 月 10 日、10 月 11 日

③既にビワイチに関する有償事業を行っている事業者や自転車活用に向けた活動を行っている団体等と意見交換を 3 回行い、論点整理した。

日時：平成 29 年 10 月 3 日、10 月 16 日、12 月 13 日

○その他関係団体

- ・ 滋賀県医師会（平成 29 年 11 月 1 日）
- ・ 公益財団法人滋賀県体育協会（平成 29 年 12 月 7 日）
- ・ 一般社団法人滋賀県トラック協会（平成 29 年 12 月 11 日）
- ・ 一般社団法人滋賀県バス協会（平成 29 年 12 月 11 日）

(2) 意見交換・ヒアリング等の主な意見

① 受入環境の整備（利用者に合わせた事業展開、インバウンド含む）

- ・サイクリスト歓迎のムードを醸しだし、楽しめる環境づくり
- ・ブランド化する過程で最低限のベースとなるサービス水準の確保
- ・欧米でサイクリングが好きな人は多く、欧米に向けていかにマーケティングしていくか
- ・言葉がわからなくても誰にでも分かる表示が必要
- ・インバウンド団体客の経費負担が大きい
- ・ビギナー層の受入体制
- ・誰でも気軽にビワイチを楽しめる工夫
- ・外国人を含む多くの人、普通の人に来てほしい。地域の自然や歴史、文化をゆっくり味わってほしい。
- ・気軽に乘っていただくためのアイデア出し、健康などテーマ性をもって訴えることも必要
- ・駐車場の確保、スタート地点等の情報発信
- ・パンクした時のケア、体制の構築
- ・立ち寄り先へのサイクルラックの設置
- ・公共交通機関（鉄道・バス・タクシー・船等）との連携
- ・湖上交通の積極的な活用
- ・宿泊施設側の受入環境の整備（例：自転車を室内に持ち込める、持込み自転車の点検）
- ・自転車観光向けの手ぶらサービス）の整備
- ・サイクリストへのおもてなし体制の構築
- ・サイクルサポートステーションのようなサービス拠点の充実化
- ・レンタサイクル業者の誘致、レンタル自転車施設の確保
- ・トイレの確保
- ・市町村・主体の違いによるサービスの違い
- ・誰もが言葉がわからなくてもわかる表示が必要
- ・インバウンドの受入体制の構築

② 走行環境・案内表示

- ・シニアや家族連れなどゆっくり楽しんで下さる方々にもお越しいただけるように。そのためには、だれでも走れる、安全に走ることが必要
- ・15万人という目標を達成したときに、現状の環境で収容できるのか、安全は確保できるのか
- ・どうやって車道に下ろしてここちよいスピードで走れるようにしていくか。しかし、車道を怖くなく走れる地域が日本国内には少ない
- ・初めて来た人でも準備しなくても回れる環境整備が必要。安全でルートがわかりやすいことが必須
- ・道路は大体良いが部分的にわかりにくく走りにくい
- ・環境整備、専用道路、案内表示。危険な場所の表示は至急をお願いしたい。琵琶湖大橋では、南側を走ってしまい、とても怖い思いをした。北側が広い、といった案内もない
- ・車から幅寄せされるなどの嫌がらせを受けた経験のある人がいる
- ・ルート・スポットの分かりにくさ、サイクリングの目的地の提案
- ・車道を怖くなく走れるモデル地域化
- ・草刈りがしてあると印象がまったく違うので、小まめな整備必要
- ・走行環境は自転車自動車ともに厳しいため、共存できるようにするための環境整備が必要
- ・早期の自転車道の整備、走行空間の確保
- ・自転車の走行に適した道路整備や青矢羽等の案内表示の整備
- ・歩行者と自転車通行車の空間分離
- ・立ち寄りたくなる場所やサイクリストのチャレンジ精神をくすぐるコース等の可視化
- ・ターゲット、力量に応じたルートプラン提示
- ・長すぎないコースの構築
- ・自転車交通としての幹線道路の位置付け（自転車交通施策としてどのように位置づけるか）
- ・早く一周ではなくスピードを落とさせる
- ・危険ポイントの洗い出し、事故情報の周知
- ・日常的に楽しめる自転車空間づくりが必要である。そのためには地元から理解されることが大切であり、地元の人が楽しめる仕掛けが必要
- ・歩道と車道を区切る縁石、柵、ガードレール、段差や車止めは最新の安全性の研究を踏まえて設置。

③ ルールとマナー

- ・ マナーの統一ガイドラインづくりと周知。
- ・ 自転車環境を進める上での交通安全対策への不安
- ・ マナーの向上ももっと呼びかけてほしい。ポイ捨ての禁止、声かけ、あいさつ
- ・ 日本人が自転車のルールを知っているか。特に自動車免許を持っていない人はルールを知らない。インバウンドでは、ルールを知らないドライバーに自転車が走る区域であることを理解してもらうことも必要。いかに車道を怖くなく、気持ちよく走れるか、モデルが出来れば自転車を日常的に利用する人口を増やすことが、サイクリストに対する理解が進み、マナーの底上げにつながる
- ・ 「声かけ」しないためにおこる接触事故がある。ロングライドイベントで呼びかけても追い抜きの際に声を出してもらえない。相互のコミュニケーションをとる習慣づけが現在の課題
- ・ ずらっと自転車が並ぶと追い抜けない。少しずつ分かれて走るというマナーを発信いただけるとありがたい
- ・ 危険情報、マナーは伝え方に工夫が必要。説教にならないように（「～はダメ」という表現は避ける）
- ・ ビワイチの左回りの推奨をもっと広報してほしい
- ・ この地域のルールを作る
- ・ 安全面への考慮、安全に走るためのルールの明確化
- ・ 気軽に入れる自転車保険のシステム構築
- ・ 安全対策の実施
- ・ サイクリストへのマナー啓発
- ・ 地域住民と観光客が安全に楽しめるような安全対策の実施
- ・ 自動車と自転車の共存関係の構築
- ・ 利用者のマナー向上に向けた取組
- ・ サイクリスト、歩行者、車が配慮し合いながらビワイチを楽しめる環境整備
- ・ 子どもを守るような配慮も必要。ルールを守らせる表示
- ・ 学校での交通安全教育との連動
- ・ ビワイチ計画書など安心できる状態づくり
- ・ 運転免許更新時にルールとマナー講習、意識づけ
- ・ ヘルメット着用の推進

④ 観光振興・地域活性化

- ・ ビワイチを通じて、琵琶湖の良さを伝えることが大切
- ・ ビワイチに物語性（ストーリー）を出すこともありだと思ふ
- ・ ビワイチの認知度が低い
- ・ サイクリストよりも家族連れを増やすことが大事。地域活性化につながる取組をやってほしい
- ・ サイクルツーリズムに関連する民間事業の継続性
 - ・ 消費金額などの目標値
- ・ まず土地の魅力をアピールし、琵琶湖の大きさを分かりやすく伝えることも重要
- ・ 滞在型の様々なツーリズムの提案
- ・ 自転車で持ち運べるサイズの食べ物開発、販売
- ・ アプリの活用、ターゲットに応じたプロモーション
- ・ サイクリストを立ち止まらせる工夫、サイクリスト向けの商品開発
- ・ サイクリストの滞在時間を増やしてお金を落とす仕組みづくり
- ・ 事業者を巻き込んだ自転車観光の仕組みづくりや良さを活かした取組
- ・ 地域資源（西の湖等）、観光地、歴史文化のあるところへの誘導、ビワイチを活用した地域発信
- ・ 休憩拠点、立ち寄り場所の明解化
- ・ 地域の良さを活かした地域らしいイベントの開催、ツアー造成
- ・ サイクリスト向けの立ち寄りマップ（クーポン付）の作成
- ・ サイクリスト向けの宿泊施設の情報発信
- ・ サイクリストへの特典サービス（例：入場料無料、飲食物割引、団体客無料）
- ・ 自転車用のドライブスルー
- ・ 内陸部で人気の飲食店の湖岸への出店
- ・ ビワイチのキャラクターの募集
- ・ 写真撮影スポットの開拓、情報発信
- ・ ビワイチ+αの魅力発信、SNS等への動画配信
- ・ 地域のお店、おいしいもの紹介
- ・ 地元のおいしいものを手軽な補給食として提供（「おいしが・うれしが」と連携など）。
- ・ サイクリストへ声がけする人や、話し相手になる人がいる。地元で長く暮らす人や自転車好き、ビワイチ体験者など。

⑤ サブルート（ビワイチ・プラス）

- ・ 15 万人の目標値を達成した時に交通容量として大丈夫か。基本はピークを発生させずに集中させずに吸収する。ルール、マナーも大切だがそれだけでは吸収は無理。ひとつのルートに集中させずに分散させて吸収することも必要。スピードを落とさせ、地域に寄り道も必要
- ・ きれいなルートは安全でよいが、集落内などそうではないところを走るのも魅力的
- ・ 「サブルート」はぐるっと博、日本遺産との連携が必要
- ・ （自然の豊かなコースの人気の高い一方で）琵琶湖一周以外のルートが知られていない
- ・ ほとんどのサイクリストは「最短距離」ではなく、スピードを落とし、集落を回らせることが観光として魅力的である。サブルートとして旧道を活用するなどして（地域にとってメリットのある）サブルートの磨き上げも大事では。メインルートだけでなく。そういう視点も必要ではないか
- ・ ビワイチだけでなく、内陸部へ誘客するビワイチ・プラスの施策推進
- ・ 二次交通が弱い地域における自転車観光推進への可能性
- ・ 平坦なビワイチコースとは違うヒルクライムの要素を加えたコース開発
- ・ 琵琶湖沿いに限定せず広げていく

⑥ ブランド化

- ・ 「ビワイチ」がブランド化されていない。「ビワイチ」に来る方への約束事がブランドにつながると思う
- ・ みんなが「いい」と思えることがブランド化。共感してもらうことが大切。個人の達成感にむけた認定制度だけではブランド化にはならない。認定証は知名度を高めることには役立っているかもしれないが、それだけでビワイチをブランドにするということはない。住民・事業者・サイクリストを巻き込んだソーシャルグッドが必要

⑦ 来訪者と地域とのつながり

- ・ 成功する地域には、地域に住まわれる方々が自転車を受け入れる体制ができている
- ・ 来ていただく地域にウェルカムの姿勢が必要。地域の人々から受け入れて頂いていると感じられるか
- ・ 滋賀県民にとっても参加し甲斐のある、担いがいのあるビワイチにどうするか。滋賀県民が自転車文化を支え、担い、自転車を楽しむために滋賀県に引っ越したいと思われるような情景を生み出すことが大切
- ・ 地元の人の共感を得ることがないと地域の住民に受け入れてもらえない
- ・ 受け入れられていない地元への配慮
- ・ 小中学校で使用する自転車ヘルメットのスポーティー化（将来、サイクリングをする子供も増え、親にも理解されやすくなるのでは）
- ・ 道路整備は時間がかかるため、まず県民にビワイチの良さを知ってもらうことが必要
- ・ 地域住民とサイクリストが触れ合ってもらえるようなアプローチ
- ・ 小学生によるビワイチ体験の授業導入、学校関係との連携
- ・ 地元の人々がファミリーで楽しめる、子どもと女性が参加するイベントやツアー。
- ・ 自転車を介して仲間が増えるまちづくり。
- ・ サイクリストが互いに声を掛け合え助け合える関係づくり。

⑧ ガイド養成

- ・ サイクルガイドが不足している
- ・ 琵琶湖一周向けと地域向けでガイドに要求されるスキルが異なる
- ・ 海外ではガイドをつけて走るのが普通。地域の方とのコミュニケーションの橋渡しも含めたガイドの必要性、日本ルールの周知、文化と安全マナーの伝達
- ・ ガイドの育成は長期的に見ても必要
- ・ 走行管理ができる人を育てていくのも大切。この地域を走るなら、この地域のルールを守って頂けるようにルールを作り、地域が中心となってルールを広めていく

⑨ 推進主体の形成

- ・ 推進主体の役割分担
- ・ 先進的に取り組む主体（官・民）への後押し、支援
- ・ 周辺府県市町村との連携
- ・ 初心者からワンストップで相談できる窓口の整備
- ・ 官と民の役割分担の整理
- ・ 県内全体の盛り上がりに向けた働きかけ
- ・ 市民、自転車関連や観光事業者、行政が協働で、サイクルツーリズムと日常での自転車の地位向上に向けて取り組む場を設ける（自転車コミュニティのネットワーク拠点）

⑩ 情報発信

- ・ レンタサイクルを利用されない方への情報の伝達方法
- ・ 安全の確保（ルール・マナー・道路情報・事故情報）
- ・ 対象者別に分けた情報提供
- ・ 対象者別に分けたルート案内

（３）海外事例（ドイツ）からの示唆

ヒアリングの中で、海外事例も参考にすべきとの声があったため、ドイツ事例を以下にまとめました。（一般社団法人輪の国びわ湖調べ）

サイクリング客のためのインフラとして、ドイツで最も重視されているのは、サイクリングロードと標識、それに加えてサイクリングマップです。

ドイツでの自転車道整備の考え方は、できるだけ車と自転車の道を分離する。そしてサイクリングルートは既存の専用道、車道、歩道等をできるだけ利用する。途中、多少走りにくい所があっても連続性を確保することを主眼に置き、それぞれの場所で自転車はどこを走ればいいのかを標識により明示するということです。

また、幹線道路沿いの自転車レーンよりも、道が狭くても車が通らない自然に囲まれた中をゆっくり走れる道が推奨されています。



自転車用標識 フランクフルト近郊



シュヴァルツヴァルト、チチ湖近郊

ドイツで大きな書店に行くと、ドイツやその周辺の地域のコースを紹介した何百種類もの詳しい内容のサイクリングマップやガイドブックが販売されているのを見ることができます。



ブレーメン中央駅駐輪場にあるADFC（全ドイツ自転車クラブ）ショップにて。並んでいるのはすべてドイツ各地のサイクリングマップである（2012年撮影）



Bikelineシリーズ「ボーデン湖自転車道」の表紙と中身



サイクリングを楽しむ観光客は、ドイツでは、日本より夫婦や家族連れの割合がずっと高く、一見、サイクリングとは無縁な雰囲気の人々がサイクリングを楽しんでいる姿を多く見かけます。この傾向はボーデン湖ではさらに顕著であり、年配の夫婦や家族連れが主流を占めています。



ボーデン湖岸コンスタンツ-ラドルフツェル間



ボーデン湖岸ロマンショルン-クロイツリンゲン間

ボーデン湖は琵琶湖の約 8 割の大きさのドイツ最大の湖で、鉄道がほぼぐるっと取り巻いて走っているなど琵琶湖と類似性が高い湖です。高級保養地であり、かつ年間のサイクリング客が約 65 万人であるなど、滋賀にとって非常に参考になる地域です。

またボーデン湖には、日常用、観光用を兼ねたフェリーや高速線の航路が多くあります。フェリーは当然ですが、高速船にも自転車をそのまま積載することができます。ただし、特に自転車積載用の設備があるわけではなく、甲板上に自転車を重ねて置くだけです。乗り降りの際も他の人々と同じ出入り口から自転車を押していきます。

公共交通への自転車積載の例としては、他に列車があります。ドイツでは、日本の新幹線にあたる ICE (Intercity-Express) 以外のほとんどの列車に自転車積載用車両が連結されており、自転車をそのまま載せることができます。

また、ドイツでは自転車に対する一般の人の理解が進み、住民とのあつれきはないとのことでした。ドイツは車にも自転車にも乗るのでお互いの理解が通じやすく、また、皆が普段の生活で自転車を使っているため自転車に対して友好的であるとのことでした。

2. 「ビワイチ」に係るこれまでの取組

滋賀県内では、発祥の時期は定かではありませんが、小中高生や大学生が冒険代わりに琵琶湖一周サイクリングする文化があります。

その発祥の一つと考えられるのが、1972年から25年かけて、琵琶湖の環境保全・治水・利水にかかる総合開発事業です。この時に琵琶湖をぐるっと一周できる、「湖周道路」が完成しました。

2001年、県は193kmのコース「ぐるっとびわ湖サイクルライン」を沿線市町、関係機関と調整し、サイクリングマップを作成し、配布を開始しました。これに合わせて、案内看板や距離標等を整備し、環境整備を行いました。インターネット上で一番古い「ビワイチ」の表記も2001年であり、この頃から「ビワイチ」という言葉が、サイクリングファンの間で広がり始めたと考えられます。

現在では、学校行事や社員研修で琵琶湖一周などのサイクリングをされる主体もあります。イベントとしても1980年代から琵琶湖一周する自転車のイベントや、ヒルクライム（坂を登るイベント）、ロングライド（長距離を走るイベント）、エンデューロ（耐久レース）、クリテリウム（周回レース）等が開かれています。

2012年8月、滋賀プラス・サイクル推進プランを進める主体として、滋賀プラス・サイクル推進協議会が設立されました。滋賀プラス・サイクル推進協議会では「日常利用」と「観光利用」を2つの軸として、車から自転車への転換を促すまちづくりを、連携・情報共有のプラットフォームとして機能することで進めています。行政・民間の横断的な「観光利用」の取組としては、受入体制の整備を進めるため、サイクルサポートステーションの設置を開始させたり、サイクルツアーガイド講座を実施されています。また歴史・文化・豊かな自然など、滋賀の多彩な魅力を体感・体験するサイクルツーリズムを推進していくための旗印として、県内外に「ビワイチ」サイクルツーリズムのロゴを広く募集し、定めるなどの活動が行われています。また、企業との連携の中で、ワンウェイレンタサイクルや、手荷物の当日配送なども行われています。

滋賀県においては、「ぐるっと琵琶湖サイクルライン」マップを刷新し、多言語（英語・中国語（繁体字））対応させるとともに、県内の街道や歴史遺産、紅葉などの絶景、サイクルトレインなど、「ビワイチ」だけではない魅力を発見していただき、琵琶湖岸だけでなく県内全域でサイクリングを楽しんで頂けるよう、テーマで巡る「ビワイチ・プラス」など、自転車での楽しみ方もあわせて紹介しています。また「ビワイチ」を安全に楽しんでもらえるよう、まずは道路の段差解消、矢羽根による路面表示・案内整備など条例に基づく安全対策や分かりやすいコース案内の整備を進めるとともに路肩拡幅による自転車の走行空間の整備もあわせて行っています。また「ビワイチ」ルートでもある湖周道路の除草回数従来より増やすなど維持管理の強化にも進めています。



公益社団法人びわこビジターズビューローにおいては、「ビワイチ」の魅力を多くの人に知ってもらうため、サイクリングイベントに出展したり、自転車情報雑誌に掲載するなど広報活動も行われています。

県内市町をみると、守山市では「ビワイチ」の発着点としてのPRを進められると共に、市民による協議会を設置されるなど、自転車文化の普及にも努められています。また米原市では米原駅へのレンタサイクル拠点の設置や地域ルートの設定・PRを地域と共に進められています。さらに大津市、草津市、彦根市、長浜市、高島市、日野町、愛荘町等の県内市町では、自転車イベントやサイクリングガイドツアーの実施、サイクリングマップの作成、レンタサイクルの推進が進められています。また、琵琶湖一周サイクリングが注目を集めるに伴い、「ビワイチ」の盛り上げりを地域振興に活かそうとする地域も増えており、湖上交通・サイクルトレインの活用、インバウンドを含むツアー造成の推進も行われるようになりました。

3. ビワイチ推進総合計画検討懇話会設置要綱

（目的）

第1条 自転車で琵琶湖を一周する「ビワイチ」を核に、観光振興、交流人口の増加による本県の認知度向上や地域活性化（地方創生）につなげるため、自転車の走行環境整備・交通システム整備・観光施策等をはじめ、様々な分野が一体となって「ビワイチ」を推進していく方向性を示す指針となる総合計画の策定に当たり、関係団体、専門的知識を有する者等の幅広い意見の聴取を行うため、「ビワイチ推進総合計画検討懇話会（以下、「懇話会」という。）」を設置する。

（所掌事項）

第2条 懇話会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項を所掌する。

- （1）（仮称）ビワイチ推進総合計画の策定に関する意見・助言
- （2）その他（仮称）ビワイチ推進総合計画の策定にあたり必要と認められる事項に関すること

（組織等）

第3条 懇話会の委員は、別表に掲げる委員で構成する。

2 委員がやむを得ない事情により懇話会に出席できないときは、その委員が委任する代理者を出席させることができる。この場合において、代理人は、会議が開かれる前に委任状を提出しなければならない。

3 懇話会に座長を置き、委員の互選により定める。

4 座長は、懇話会の会務を処理し、懇話会を代表する。

5 座長に事故のあるときは、座長が指名した者が、その職務を代理する。

6 懇話会に必要な応じてオブザーバーを置くことができる。

（委員の任期）

第4条 委員の任期は、本要綱施行の日から（仮称）ビワイチ推進総合計画の策定の日までとする。

（会議）

第5条 懇話会は滋賀県商工観光労働部観光交流局長（以下、「局長」という。）が招集する。

2 懇話会は公開とする。ただし、局長が必要と認めたときは、非公開とすることができる。

3 局長は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

（庶務等）

第6条 懇話会の運営に関する庶務は、滋賀県商工観光労働部観光交流局において処理するものとする。

（委任）

第7条 この要項に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は局長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成29年7月6日から施行する。

この要綱は、平成29年11月21日から施行する。

(別表) ビワイチ推進総合計画検討懇話会委員名簿

氏 名	所属・役職名
伊吹 恵鐘	滋賀プラス・サイクル推進協議会副会長
小川 圭一	立命館大学理工学部都市システム工学科教授
喜多村 樹美男	近江鉄道株式会社代表取締役社長
絹代	サイクルライフナビゲーター
小出 彩子	インサイドジャパン・ツアーズ日本支店長
佐藤 郁子	一般社団法人日本旅行業協会関西支部滋賀地区委員会
佐藤 良治	公益社団法人びわこビジターズビューロー会長
菅又 武之	西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部営業課観光推進室長
大道 良夫	滋賀県商工会議所連合会会長
堂中 定雄	滋賀県自転車軽自動車商業協同組合理事長
仲間 浩一	トレイルボックス代表

※敬称略、五十音順

4. 滋賀プラス・サイクル推進協議会規約

（名 称）

第1条 この会は、滋賀プラス・サイクル推進協議会（以下、協議会という。）と称する。

（目 的）

第2条 これまで個人の私的な移動手段としての役割に限定されていた自転車に対して、単なる公共交通との連携だけでなく、その役割を見直し、新しい価値と公共性を付与していくことで、自転車を地域における公共交通体系のひとつとして位置づけていく「+cycle（プラス・サイクル）」構想を実施していくことを目的とし、「環境のため、健康のため、人にやさしいまちづくり」及びサイクルツーリズムを目指す。

（事 業）

第3条 協議会の所掌事務は次の各号に掲げるとおりとする。

- （1）「+cycle（プラス・サイクル）」構想の検討・実施
- （2）自転車に関する課題・情報の共有と相談に応じた協力支援
- （3）その他、目的を達成するために必要な事項

（構 成）

第4条 協議会は、別表に掲げる委員をもって構成する。

（役 員）

第5条 協議会活動の円滑な推進のため、以下の役員をおく。

- （1）会長 1名
 - （2）副会長 2名
 - （3）監事 2名
- 2 会長は滋賀県知事とし、副会長および監事は委員の互選により定める。
 - 3 会長は、協議会の議長となり、会務を総理する。
 - 4 副会長は、会長を補佐し、やむをえず会長が出席できない時は、その職務を代理する。
 - 5 監事は、協議会の会計を監査する。

（役員の任期）

第6条 役員の任期は一年とする。ただし、再任は妨げない。

- 2 役員の途中退任における補欠役員の任期は、前任者の残任期とする。

（会 議）

第7条 協議会の会議は、会長が招集する。

- 2 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の出席を求め意見を聞くことができる。

（ワーキンググループ）

第8条 協議会には、「+cycle（プラス・サイクル）」構想のワーキンググループをおく。

- 2 ワーキンググループのテーマは次の各号に挙げるとおりとする。
 - （1）ルール・マナー・安全（自転車をもっと安全に乗るために）
 - （2）情報発信（自転車をもっと楽しむために）

(3) 環境整備（自転車をもっと利用するために）

- 3 ワーキンググループは委員数名によって構成する。また、委員以外の者を構成員に加えることができる。
- 4 ワーキンググループは検討・実施した結果を協議会へ報告することとする。
- 5 ワーキンググループの運営に関し必要な事項は、別に定める。

(幹事会)

第9条 本会の事業を円滑に遂行するため、幹事会を置く。

- 2 幹事会は、会長が指名した委員、事務局長によって構成する。
- 3 幹事会は、協議会の事業の執行に関する企画、立案を行うとともに、次に掲げる事項について決定する。
 - (1) 協議会に付議すべき事項
 - (2) 協議会で議決した事項の執行に関すること
- 4 幹事会の議事は、全会一致をもって決するものとする。

(事務局)

第10条 協議会の事務を処理するため、事務局を滋賀県土木交通部交通戦略課内に置く。

- 2 協議会の事務局は、事務局長及びその他事務局員を置く。
- 3 事務局長は滋賀県土木交通部交通戦略課課長とし、その他事務局員を指名することができる。

(会 計)

- 第11条 協議会の経費は、負担金、補助金、寄付金およびその他の収入をもって支弁する。
- 2 協議会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(その他)

第12条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は別に定める。

(規約の改正)

第13条 この規約や変更の必要が生じたときには、協議会の会議において検討のうえ変更するものとする。

附則 この規約は平成24年8月23日から施行する。

附則 この改正は平成26年6月26日から施行する。

附則 この改正は平成27年9月2日から施行する。

附則 この改正は平成28年3月28日から施行する。

- 2 この改正に伴って新たに副会長の選出を行う際の任期は、第6条の規定にかかわらず、現副会長の残任期とする。

5. アンケート結果

びわいち(びわ湖一周サイクリング)に関するアンケート結果

滋賀県では、県の象徴であり日本一の大きさを誇る琵琶湖を自転車一周する「びわいち」を通じて、周辺の自然や歴史、観光地等を楽しんでいただくため、自転車観光拠点の整備や自転車観光を楽しんでいただくために、自転車観光拠点の整備や自転車観光を楽しめる環境づくりを進めております。「びわいち」をより安全にかつ快適に楽しんで頂きたいと考え、今回、びわいちに関するアンケート調査を実施いたしました。

★ 実施時期:平成29年7月

★ 対象者:県政モニター:400人

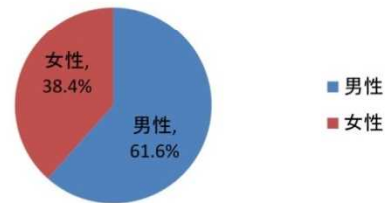
★ 回答数:349人(87.3%)

★ 担当課:商工観光労働部

観光交流局 びわいち推進室

(※四捨五入により割合の合計が100にならない場合があります。)

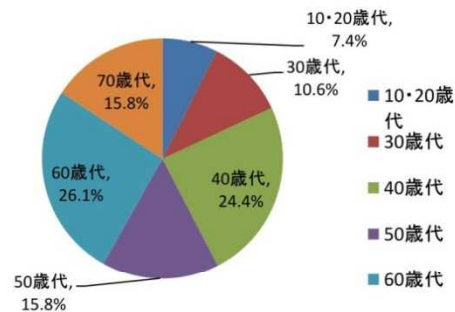
【性別】



◆あなたの性別と年齢を教えてください。

	男性	女性	計	割合
10・20歳代	10	16	26	7.4%
30歳代	16	21	37	10.6%
40歳代	32	53	85	24.4%
50歳代	29	26	55	15.8%
60歳代	75	16	91	26.1%
70歳代	53	2	55	15.8%
計	215	134	349	100.0%
割合	61.6%	38.4%	100.0%	

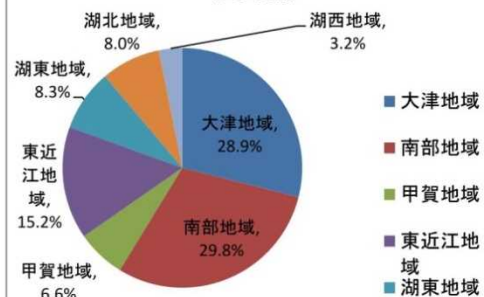
【年齢】



◆あなたのお住まいの地域を教えてください。

	男性	女性	計	割合
大津地域	66	35	101	28.9%
南部地域	66	38	104	29.8%
甲賀地域	14	9	23	6.6%
東近江地域	32	21	53	15.2%
湖東地域	15	14	29	8.3%
湖北地域	15	13	28	8.0%
湖西地域	7	4	11	3.2%
計	215	134	349	100.0%

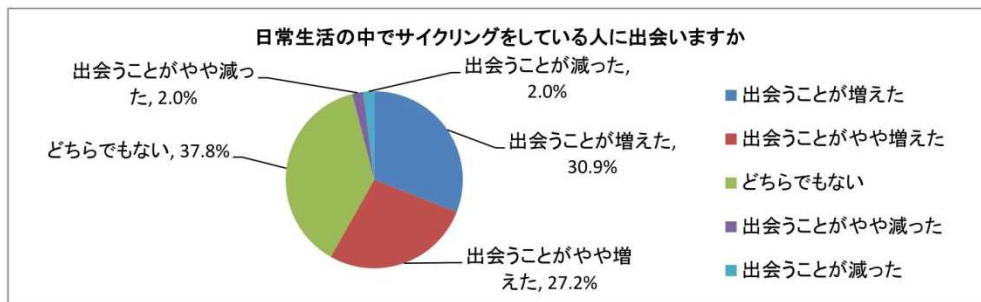
【地域別】



問1 「ビワイチ」など、県内でのサイクリングに関するあなたの現時点での印象についてお尋ねします。
 以下の(1)～(3)の各項目について、該当するものを選んでください。
 (回答チェックは各項目ごとに1つ n=349)

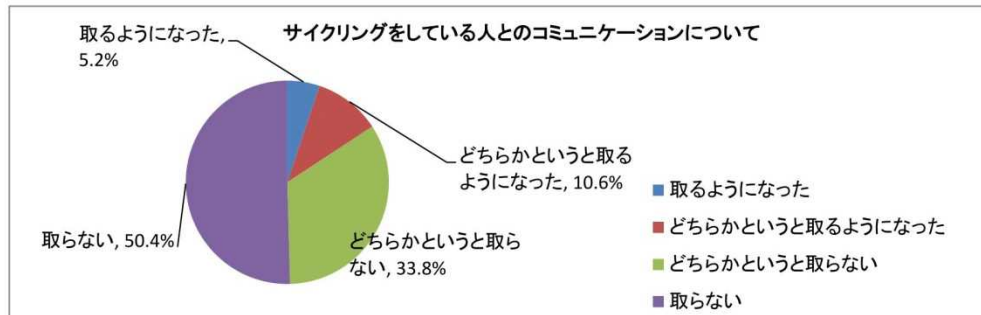
- (1) 日常生活の中で、サイクリングをしている人に出会いますか
1. 出会うことが増えた
 2. 出会うことがやや増えた
 3. どちらでもない
 4. 出会うことがやや減った
 5. 出会うことが減った

	年代別						性別		計	割合
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	9	14	25	19	25	16	74	34	108	30.9%
2.	7	10	20	12	30	16	61	34	95	27.2%
3.	10	11	38	20	31	22	73	59	132	37.8%
4.	0	2	1	2	1	1	5	2	7	2.0%
5.	0	0	1	2	4	0	2	5	7	2.0%
計	26	37	85	55	91	55	215	134	349	100.0%



- (2) サイクリングをしている人とのコミュニケーションについて (n=349)
1. 取るようになった
 2. どちらかという取るようになった
 3. どちらかという取らない
 4. 取らない

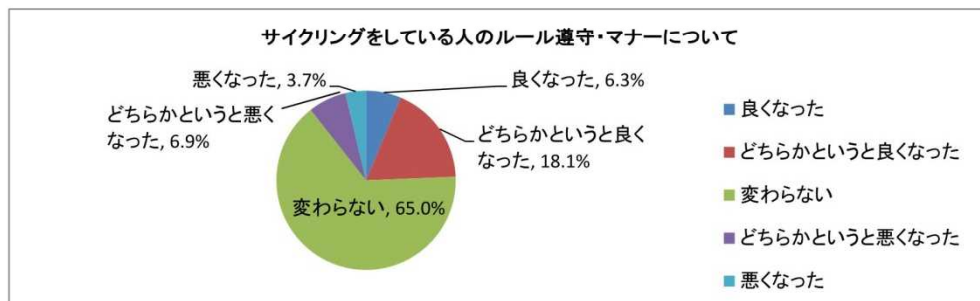
	年代別						性別		計	割合
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	2	2	3	4	4	3	14	4	18	5.2%
2.	2	4	6	2	13	10	30	7	37	10.6%
3.	5	12	24	22	36	19	76	42	118	33.8%
4.	17	19	52	27	38	23	95	81	176	50.4%
計	26	37	85	55	91	55	215	134	349	100.0%



(3) サイクリングをしている人のルール遵守・マナーについて (n=349)

1. 良くなった
2. どちらかというと良くなった
3. 変わらない
4. どちらかというと悪くなった
5. 悪くなった

	年代別						性別		計	割合
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	0	2	3	3	7	7	16	6	22	6.3%
2.	8	2	9	8	20	16	51	12	63	18.1%
3.	18	27	64	31	59	28	124	103	227	65.0%
4.	0	4	7	7	4	2	17	7	24	6.9%
5.	0	2	2	6	1	2	7	6	13	3.7%
計	26	37	85	55	91	55	215	134	349	100.0%

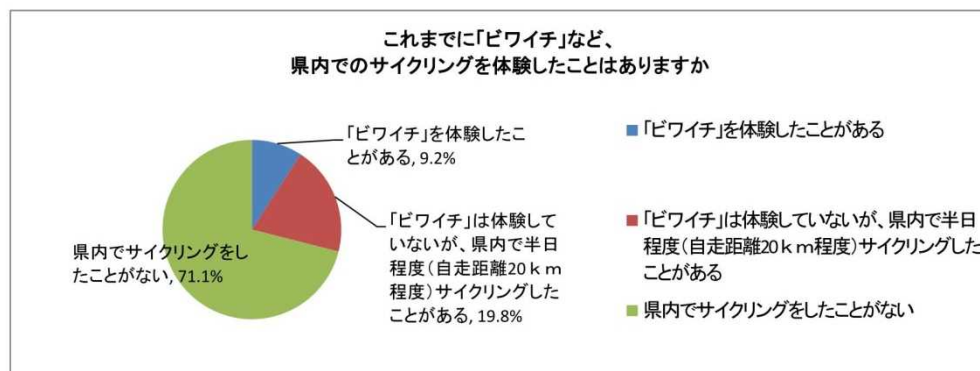


問2 これまでに「ビワイチ」など、県内でのサイクリングを体験したことはありますか。

(回答チェックは1つだけ n=349)

1. 「ビワイチ」を体験したことがある → 問3へ
2. 「ビワイチ」は体験していないが、県内で半日程度(自走距離20km程度)サイクリングしたことがある → 問4へ
3. 県内でサイクリングをしたことがない → 問6へ

	年代別						性別		計	割合
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	1	3	5	7	10	6	26	6	32	9.2%
2.	5	6	10	7	23	18	58	11	69	19.8%
3.	20	28	70	41	58	31	131	117	248	71.1%
計	26	37	85	55	91	55	215	134	349	100.0%

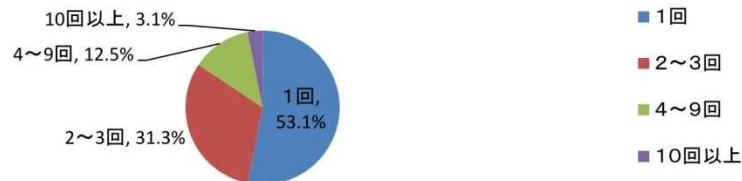


問3 問2で「1.「ビワイチ」を体験したことがある」と回答された方にお尋ねします。「ビワイチ」を体験した回数は、次のどれですか。(回答チェックは1つだけ n=32) →回答後、問5へ

1. 1回
2. 2～3回
3. 4～9回
4. 10回以上

	年代別						性別		計	割合 (/ 32)
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	1	2	2	5	4	3	13	4	17	53.1%
2.	0	0	2	1	5	2	10	0	10	31.3%
3.	0	1	1	1	1	0	3	1	4	12.5%
4.	0	0	0	1	0	0	0	1	1	3.1%
計	1	3	5	8	10	5	26	6	32	100.0%

問2で「1.「ビワイチ」を体験したことがある」と回答された方にお尋ねします。
「ビワイチ」を体験した回数は、次のどれですか。

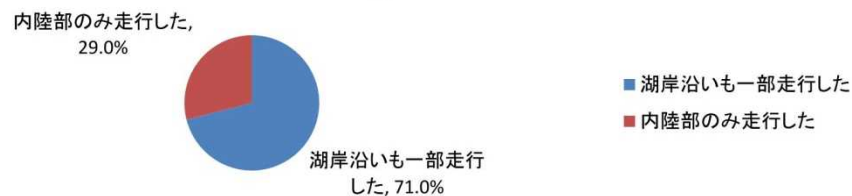


問4 問2で「2.「ビワイチ」は体験していないが、県内で半日程度(自走距離20km程度)サイクリングしたことがある」と回答された方にお尋ねします。走行したコースは、次のどちらですか。(回答チェックは1つだけ n=69) →回答後、問5へ

1. 湖岸沿いも一部走行した
2. 内陸部のみ走行した

	年代別						性別		計	割合 (/ 69)
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	3	3	6	4	20	13	44	5	49	71.0%
2.	2	3	4	3	3	5	14	6	20	29.0%
計	5	6	10	7	23	18	58	11	69	100.0%

問2で「2.「ビワイチ」は体験していないが、県内で半日程度(自走距離20km程度)サイクリングしたことがある」と回答された方にお尋ねします。走行したコースは、次のどちらですか。



問5 問2で「1.「ビワイチ」を体験したことがある」「2.「ビワイチ」は体験していないが、県内で半日程度（自走距離20km程度）サイクリングしたことがある」と回答された方にお尋ねします。以下の(1)～(4)の各項目について、該当するものを選んでください。（回答チェックは各項目ごと n=101）

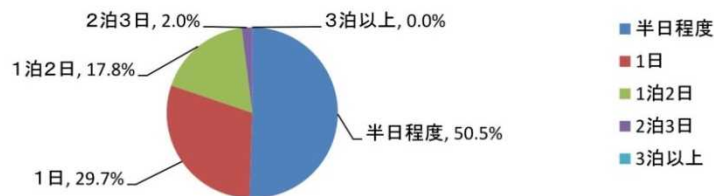
(1) あなたが行った「ビワイチ」など県内でのサイクリングの日程について（回答チェックは1つだけ n=101）

1. 半日程度
2. 1日
3. 1泊2日
4. 2泊3日
5. 3泊以上

(人)

	年代別						性別		計	割合
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	2	4	10	5	17	13	41	10	51	50.5%
2.	3	2	3	5	10	7	29	1	30	29.7%
3.	1	3	1	3	6	4	13	5	18	17.8%
4.	0	0	1	1	0	0	1	1	2	2.0%
5.	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	6	9	15	14	33	24	84	17	101	100.0%

あなたが行った「ビワイチ」などの県内でのサイクリングの日程について



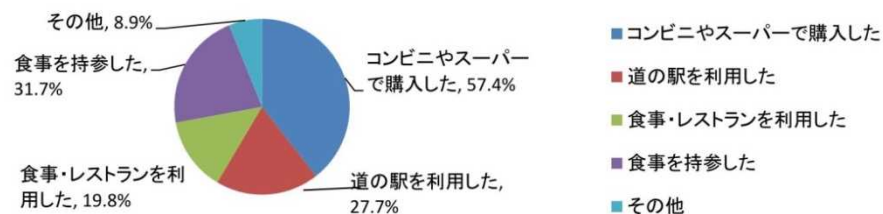
(2) 「ビワイチ」など県内でサイクリングをする際の主な食事形態について（回答チェックはいくつでも n=101）

1. コンビニやスーパーで購入した
2. 道の駅を利用した
3. 食事・レストランを利用した
4. 食事を持参した
5. その他 → 下欄に具体的に記入してください。（200字以内）

(人)

	年代別						性別		計	割合 (/ 101)
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	4	5	9	10	17	13	48	10	58	57.4%
2.	4	2	2	5	8	7	25	3	28	27.7%
3.	2	1	0	3	10	4	15	5	20	19.8%
4.	0	3	6	5	11	7	24	8	32	31.7%
5.	0	3	2	1	2	1	6	3	9	8.9%
計	10	14	19	24	48	32	118	29		

「ビワイチ」など県内でサイクリングをする際の主な食事形態について



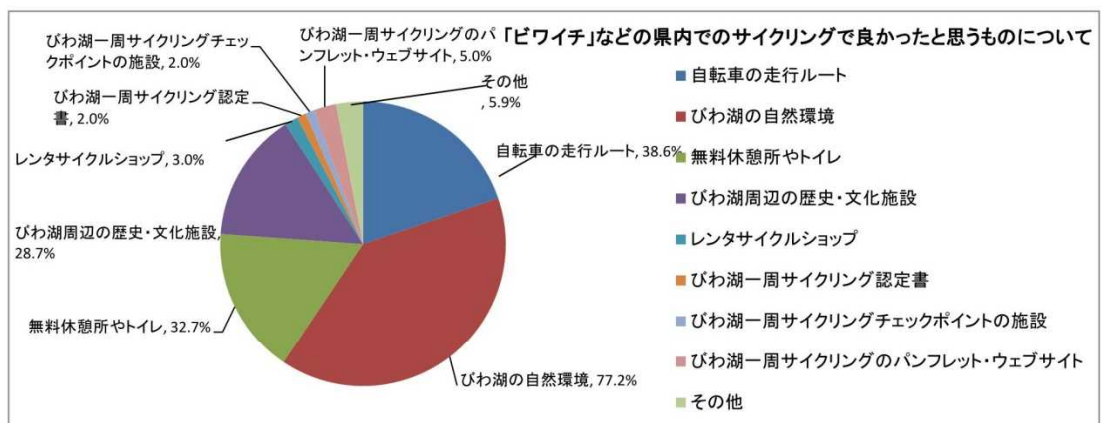
【その他】

- ◆ 食事と食事の間でした。
- ◆ 直売所を利用した

(3) 「ビワイチ」など県内でのサイクリングで良かったと思うものについて(回答チェックはいくつでも n=101)

1. 自転車の走行ルート
2. びわ湖の自然環境
3. 無料休憩所やトイレ
4. びわ湖周辺の歴史・文化施設
5. レンタサイクルショップ
6. びわ湖一周サイクリング認定書
7. びわ湖一周サイクリングチェックポイントの施設
8. びわ湖一周サイクリングのパンフレット・ウェブサイト
9. その他 → 下欄に具体的に記入してください。(200字以内)

	年代別							性別		計	割合 (/ 101)
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代		男性	女性		
1.	3	3	7	8	9	9		35	4	39	38.6%
2.	4	7	12	10	26	19		64	14	78	77.2%
3.	4	1	4	3	11	10		28	5	33	32.7%
4.	3	1	0	4	9	12		27	2	29	28.7%
5.	0	1	0	0	2	0		3	0	3	3.0%
6.	1	1	0	0	0	0		1	1	2	2.0%
7.	0	1	0	0	0	1		2	0	2	2.0%
8.	0	0	0	2	2	1		5	0	5	5.0%
9.	0	1	1	2	0	2		6	0	6	5.9%
計	15	16	24	29	59	54		171	26		



【その他】

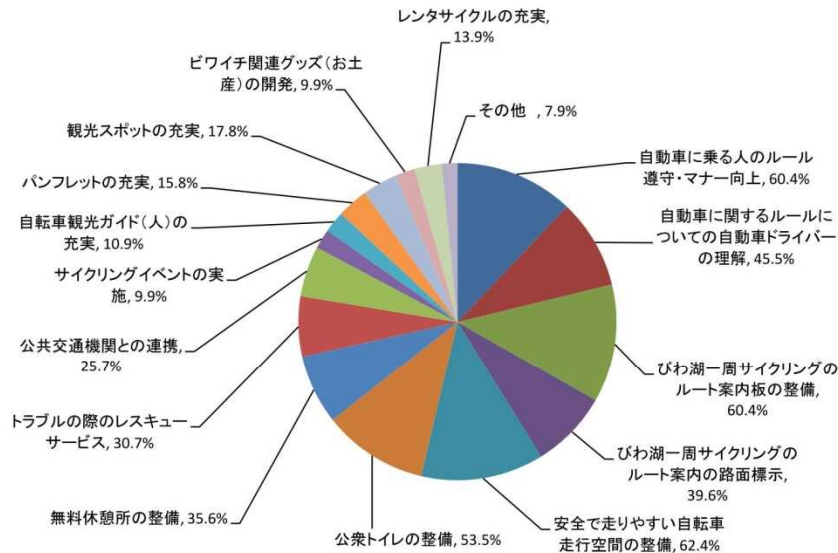
- ◆健康的で自動車を利用しなかったこと
- ◆水生植物園までなので、新しい店の発見
- ◆水泳場が多く、休憩するにはとても良い
- ◆富士登山のように、ビワイチは目標・目的がはっきりしていて、人にもわかってもらやすい。

(4)「ビワイチ」などの県内でのサイクリング環境をよりよくするため重要だと思うことについて(回答チェックはいくつで

1. 自転車に乗る人のルール遵守・マナー向上
2. 自転車に関するルールについての自動車ドライバーの理解
3. びわ湖一周サイクリングのルート案内板の整備
4. びわ湖一周サイクリングのルート案内の路面標示
5. 安全で走りやすい自転車走行空間の整備
6. 公衆トイレの整備
7. 無料休憩所の整備
8. トラブルの際のレスキューサービス
9. 公共交通機関との連携
10. サイクリングイベントの実施
11. 自転車観光ガイド(人)の充実
12. パンフレットの充実
13. 観光スポットの充実
14. ビワイチ関連グッズ(お土産)の開発
15. レンタサイクルの充実
16. その他 →下欄に具体的に記入してください。(200字以内)

	年代別						性別		計	割合 (/101)
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	3	3	7	8	22	18	52	9	61	60.4%
2.	3	3	6	6	17	11	38	8	46	45.5%
3.	4	5	4	8	20	20	52	9	61	60.4%
4.	1	3	2	5	14	15	33	7	40	39.6%
5.	5	6	10	9	17	16	52	11	63	62.4%
6.	2	4	3	8	22	15	45	9	54	53.5%
7.	2	2	5	4	12	11	29	7	36	35.6%
8.	2	3	4	7	9	6	25	6	31	30.7%
9.	2	3	3	5	8	5	20	6	26	25.7%
10.	1	2	0	2	3	2	8	2	10	9.9%
11.	1	0	0	2	3	5	9	2	11	10.9%
12.	1	1	0	3	3	8	15	1	16	15.8%
13.	1	3	0	3	6	5	16	2	18	17.8%
14.	1	1	0	3	3	2	9	1	10	9.9%
15.	1	2	1	3	4	3	11	3	14	13.9%
16.	0	0	3	2	3	0	7	1	8	7.9%
計	30	41	48	78	166	142	421	84		

「ビワイチ」などの県内でのサイクリング環境をより良くするため重要だと思うことについて



- 自転車に乗る人のルール遵守・マナー向上
- 自転車に関するルールについての自動車ドライバーの理解
- びわ湖一周サイクリングのルート案内板の整備
- びわ湖一周サイクリングのルート案内の路面標示
- 安全で走りやすい自転車走行空間の整備
- 公共トイレの整備
- 無料休憩所の整備
- トラブルの際のレスキューサービス
- 公共交通機関との連携
- サイクリングイベントの実施
- 自転車観光ガイド(人)の充実
- パンフレットの充実
- 観光スポットの充実
- ビワイチ関連グッズ(お土産)の開発
- レンタサイクルの充実
- その他

【その他】

- ◆ R8賤ヶ岳トンネルの走行に危険を多く感じる、改善を希望します。
- ◆ 実際に走られている方に質問した方が良いのでは？
- ◆ 休憩所を兼ねた、各所の滋賀の特産品売り場を併設した施設をつくってみては。ビワイチをしている人への特典として、季節を感じる食べもののプレゼントを企画したり、宿の紹介をしたりしたら、滋賀ってこういう特色があったのだと感じてもらえると思う。
- ◆ 安価な宿泊施設の整備と充実

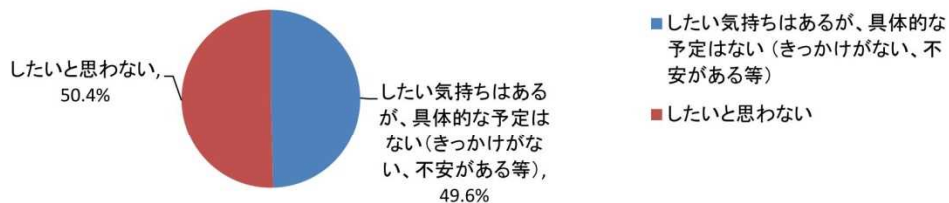
問6 問2で「3. 県内でサイクリングをしたことがない」と回答された方にお尋ねします。

今後、「ビワイチ」など県内でのサイクリングをする予定はありますか。(回答チェックは1つだけ n=248)

1. したい気持ちはあるが、具体的な予定はない(きっかけがない、不安がある等) →問7へ
2. したいと思わない →問8へ

	年代別						性別		計	割合 (/248)
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	10	11	38	26	28	10	62	61	123	49.6%
2.	10	17	32	15	30	21	69	56	125	50.4%
計	20	28	70	41	58	31	131	117	248	100.0%

今後、「ビワイチ」など県内での
サイクリングをする予定はありますか。



問7 問6で「1. したい気持ちはあるが、具体的な予定はない(きっかけがない、不安がある等)」と回答された方にお尋ねします。

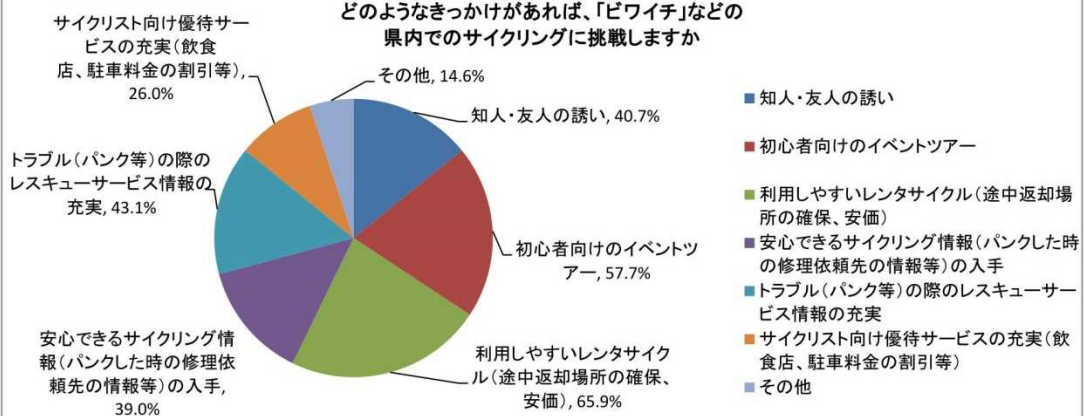
どのようなきっかけがあれば、「ビワイチ」などの県内でのサイクリングに挑戦しますか。

(回答チェックはいくつでも n=123)

1. 知人・友人の誘い
2. 初心者向けのイベントツアー
3. 利用しやすいレンタサイクル(途中返却場所の確保、安価)
4. 安心できるサイクリング情報(パンクした時の修理依頼先の情報等)の入手
5. トラブル(パンク等)の際のレスキューサービス情報の充実
6. サイクリスト向け優待サービスの充実(飲食店、駐車料金の割引等)
7. その他 →下欄に具体的に記入してください。(200字以内)

	年代別						性別		計	割合 (/123)
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	4	9	13	9	11	4	24	26	50	40.7%
2.	7	8	23	13	17	3	35	36	71	57.7%
3.	6	9	28	15	16	7	42	39	81	65.9%
4.	3	6	13	12	12	2	21	27	48	39.0%
5.	2	4	18	13	12	4	28	25	53	43.1%
6.	3	2	10	9	6	2	14	18	32	26.0%
7.	0	0	4	4	5	5	9	9	18	14.6%
計	25	38	109	75	79	27	173	180		

どのようなきっかけがあれば、「ビワイチ」などの
県内でのサイクリングに挑戦しますか



【その他】

◆サイクリングをしている人たちは、それなりの装備や服装をしているが、そこまでのこだわりが出ないでいる(サイクリングをしたいという気持ちはあるが)。ちょっと自転車での(長距離の)買い物へいくというくらいの気持ちで参加できるような、また時間を気にせず楽しめるような、だったらいいのと思います。でもこれはサイクリングの範疇ではなさそうですね。

◆ビワイチチェックポイントの見直し。充実感が乏しい為。

◆湖西(大津市)起点のモデルコースが分かれば教えて欲しい。
安価に泊まれる、宿泊施設など2日間コースをとる場合の情報やサービスが充実して欲しい。

◆高齢者では「ビワイチ」は体力的に無理なように思う。

◆市内に入ってきたグループを見たことがない。
「ビワイチ(びわ湖一周サイクリング)」コースにあるのかな？

◆資料などの具体的な情報が余り無いので出来ない。

◆自転車専用道路などが無いと、自動車脇は怖くて走れない。

◆障害があるのでしたくてできない

◆色々忙しくそこまで手が回らない

◆新聞・TVで紹介されるようになり、それなりに関心がありますが高齢で実施は無理だと思います。

◆体力的に無理だと思う

◆長男は中学生で、サイクリングは、時々行っていますが、長女は小学四年生で、半日も自転車に乗り続ける事は、まだ無理な様なので、長女が出来る様になれば、一緒に行っても良いかとは思っています。

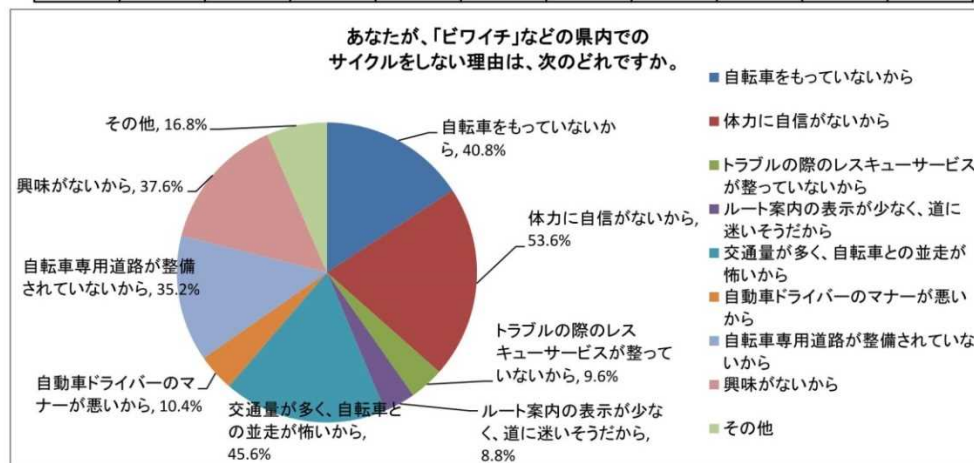
問8 問6で「2. したいと思わない」と回答された方にお尋ねします。

あなたが、「ビワイチ」などの県内でのサイクルをしない理由は、次のどれですか。

(回答チェックはいくつでも n=125)

1. 自転車をもっていないから
2. 体力に自信がないから
3. トラブルの際のレスキューサービスが整っていないから
4. ルート案内の表示が少なく、道に迷いそうだから
5. 交通量が多く、自転車との並走が怖いから
6. 自動車ドライバーのマナーが悪いから
7. 自転車専用道路が整備されていないから
8. 興味がないから
9. その他 → 下欄に具体的に記入してください。(200字以内)

	年代別						性別		計	割合 (/ 125)
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	5	5	13	7	10	11	51	0	51	40.8%
2.	2	8	18	7	15	17	31	36	67	53.6%
3.	0	2	4	0	3	3	6	6	12	9.6%
4.	1	3	3	0	1	3	5	6	11	8.8%
5.	3	4	14	5	18	13	32	25	57	45.6%
6.	1	1	4	0	5	2	7	6	13	10.4%
7.	1	4	11	7	13	8	24	20	44	35.2%
8.	7	7	12	4	12	5	27	20	47	37.6%
9.	1	1	2	4	8	5	16	5	21	16.8%
計	21	35	81	34	85	67	199	124		



【その他】

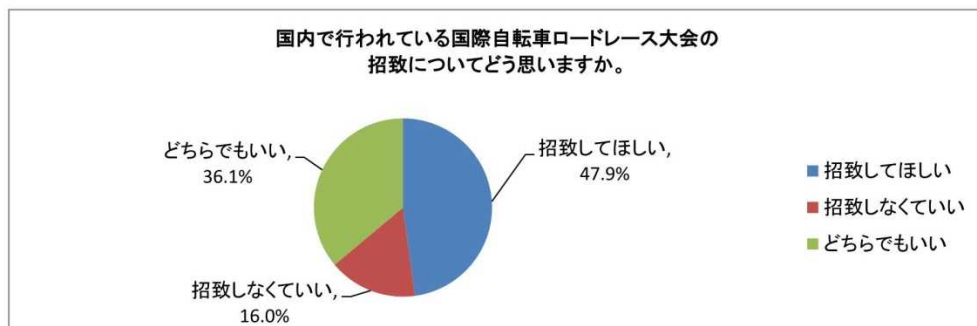
- ◆個人的にビワイチに特別興味がないだけで趣味としている人が安全に楽しんでもらえるなら良いと思います。ただ、私はウォーキングの方が自分には合っていると考えています。
 - ◆行ってみたい気はあるが怪我の状態がまだ完全によくなっていないため
 - ◆熱射病になる
 - ◆自転車に乗れないから。
 - ◆仕事が忙しいのと、子供が小さいため参加できない
 - ◆肢体不自由者には厳しい
 - ◆自転車(特にスポーツバイク)に関する知識や技術の不足
 - ◆自転車に乗ると極端に肩が凝るので乗れない。
 - ◆サイクリングは私の生き方に添わない。
 - ◆いつも自転車で移動していますが、サイクリングを自分ですることに興味はありません
 - ◆自動車ドライバーのマナーが悪いとは言わないが、百人の人がいればイロイロな人がいる。75歳以上のドライバーも悪いとは言わないが並走するのは避けたいという人もいます。
 - ◆同じ人でも時と場合によってキゲンが悪い時もあるし、注意力が鈍くなる時も一瞬考え事をするときもある。私が運転するとき心あたりがある。
 - ◆引っ掛けられたとき、”運が悪かった”で笑っていられれば良いが、それでは済まないときもある。
 - ◆若い時は自転車はよく乗っていたが、転倒してけがしてから乗らなくなった。今はジョギングに専念しています。
 - ◆山肌にすんでいるので、自転車で行くのと帰りの最後が、すごい上り坂になるのがしんどいから。
 - ◆毎月2回以上 自転車で近くの河川を巡視している。
- これが、私のサイクリングである。走行距離1回につき約10km～20km
- ◆私は自転車と言えばママチャリで近所を乗ってるだけでビワイチは無理です。
 - ◆昨年1月、歩道を歩いていて負傷。日頃から雨天時には水溜りだらけになるなど凹凸の激しい歩道の上に狭い。負傷した歩道は、幅の中心辺りから削れていて急斜面になっていました。本来であれば水平でなくてはいけない歩道。私の右足が急斜面の上部に少し乗った際、積もっていた砂で一瞬の間に足が急斜面を滑り落ち、車道との境界(コンクリート?)に激突。1年半、歩けませんでした。今年の七夕の日に松葉杖が不要に。まだ痛む。
 - ◆高齢で無理だと思います。しかし興味はあります。

問9 国内で行われている国際自転車ロードレース大会の招致についてどう思いますか。

(回答チェックは1つだけ n=349)

1. 招致してほしい →問10へ
2. 招致しないでいい →問11へ
3. どちらでもいい

	年代別						性別		計	割合
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	12	15	32	28	51	29	117	50	167	47.9%
2.	3	6	16	8	12	11	32	24	56	16.0%
3.	11	16	37	19	28	15	66	60	126	36.1%
計	26	37	85	55	91	55	215	134	349	100.0%

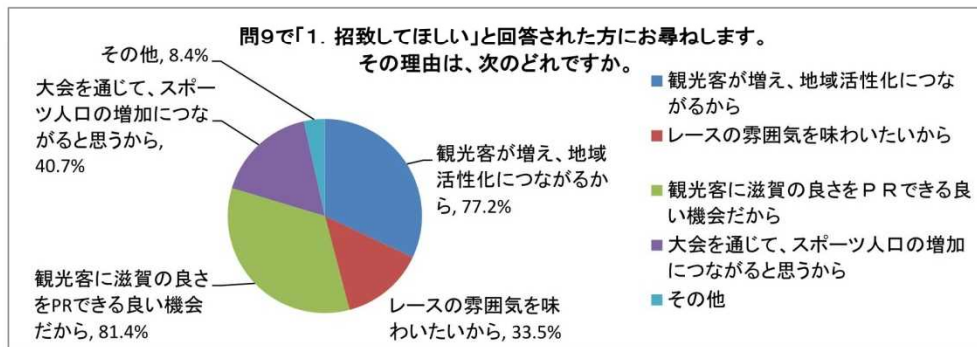


問10 問9で「1. 招致してほしい」と回答された方にお尋ねします。その理由は、次のどれですか。
 (回答チェックはいくつでも n=167)

1. 観光客が増え、地域活性化につながるから
2. レースの雰囲気を味わいたいから
3. 観光客に滋賀の良さをPRできる良い機会だから
4. 大会を通じて、スポーツ人口の増加につながると思うから
5. その他 → 下欄に具体的に記入してください。(200字以内)

(人)

	年代別						性別		計	割合 (/ 167)
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	12	11	24	24	35	23	86	43	129	77.2%
2.	1	8	14	9	16	8	44	12	56	33.5%
3.	10	10	25	22	45	24	95	41	136	81.4%
4.	4	3	13	11	21	16	43	25	68	40.7%
5.	0	1	3	3	5	2	10	4	14	8.4%
計	27	33	79	69	122	73	278	125		



- ◆ 自転車専用道路が整備されるから
- ◆ 大会を通じて、ネットやテレビ等で滋賀の一周の景色を多くの人に知っていただくチャンスだと思うから。
- ◆ ツール・ド・フランスが好きでパリに在住していたときは、シャンゼのゴール前で見ていました。誘致はしてほしいのですが、日本人の自転車に対する考え方と歴史が違います。ヨーロッパでは自転車専用道路があります、自転車に関する法律も異なります。バード面をクリア出来たら、滋賀県も自転車が普及するし、誘致しても大成功を納めるでしょう
- ◆ すごく健全そうなイベントでイメージもよいから。参加する人もエコや環境などに関心があるような感じがする。
- ◆ (専用)道路の整備が進む。

問11 問9で「2. 招致しなくていい」と回答された方にお尋ねします。その理由は、次のどれですか。
 (回答チェックはいくつでも n=56)

1. 交通渋滞が発生するから
2. 訪れる参加者(観光客)が増え、ゴミを残されそうだから
3. 地元への経済的還元があるとはあまり思えないから
4. 大会スタッフとしてボランティア協力させられそうだから
5. その他 → 下欄に具体的に記入してください。(200字以内)

(人)

	年代別						性別		計	割合 (/ 56)
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	男性	女性		
1.	0	5	16	6	7	7	20	21	41	73.2%
2.	0	2	7	1	4	4	10	8	18	32.1%
3.	2	2	10	1	3	5	13	10	23	41.1%
4.	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1.8%
5.	1	2	1	4	3	4	11	4	15	26.8%
計	3	11	35	12	17	20	54	44		

問9で「2. 招致しなくていい」と回答された方にお尋ねします。

その理由は、次のどれですか。



【その他】

- ◆人数が増えるのは、マナー的にも、観光的にもマイナス点が多すぎる。
 - ◆「ビワイチ」に誘致するほど専用道路が完成していない現況では、県民に犠牲者が後を絶たず危険を誘致する限りである。
 - ◆ビワイチとロードレースは性質が全く異なっており、レースを見たいとは思わないので。
 - ◆ルート整備が完備されているとは思わないから。
 - ◆強いてやることない。今のビワイチを楽しむことで十分。口
 - ◆経済活動の一環であれば、招致などする必要は無い。
 - ◆現時点で自動車と自転車との幹線が別々に整備されていないので
 - ◆現状だとコース的にも市民との接触がない。
 - ◆湖西ではルートがあっちこちに飛んでいて、わかりにくく大変危険に感じる。安全に走行できるのか、実際に足を運んで検証すべきと思う。
 - ◆交通事故が心配だから。
 - ◆行事をてこにして利用の普及が目論見ならやめたほうがいい。県民の日常生活の中で自転車の利用普及を図るべき。走行路の確保、無料の置き場は普及の決め手。
 - ◆参加者および観光客による渋滞やごみの不法投棄があるとともに、県もしくは市町村が負担する費用が高価だと想定するため
 - ◆参加者のマナーや治安などが心配。
 - ◆滋賀県の道路状況では、危険であり交通渋滞や県民の生活に影響するから反対。
- ビワイチ自体、自転車道や歩道を、整備してから始めるべき。
- ◆単発的なイベントを安易に誘致するより小さな実績を積み上げることが優先する
 - ◆練習や流行りで自転車が增多、マナー違反やスピードの出すぎのかたが増え、とても危険。車を運転しているとほんとに危ない。事故を起こすと相手が100%悪いのに車の方が悪くなる。狭い道も滋賀県にはおおいので。

問12 県内でサイクリングする人が増えていることについて、御意見等がありましたらお聞かせください。(抜粋)

- ◆道路の道幅が広くないし、サイクリング専用道路が必要になってくる。増えるための政策を考えるのと同じにインフラ整備も進めていく必要があります。サイクリング人口が増えれば、健康寿命も上がっていくと思います。車の利用も減ることで温暖化にも効果が上がると思います。家族の新しい休日の過ごし方にもなり、交通ルールの教育にもなるので増えることを期待します。
- ◆琵琶湖の良さをアピールできる機会として捉え、積極的にサイクリング環境を整備してほしい。と同時に、マナーの周知にも努めてほしい。
- ◆地元を知る良い機会なのでとてもいいことです。
- ◆下記の2点 1.サイクリストとしてのルールやマナーの遵守。 2.迎える県民市民として積極的な接触。(挨拶やエールなど)
- ◆滋賀＝琵琶湖のイメージが定着しているため、JRと共同で自転車を車内に持ち込むことができる車両を作るなど、親子で参加できるもっと琵琶湖を前面にだした企画を増やせればと思います。
- ◆ビワイチの体験をフェイスブックに上げてもらうなどして、どのように楽しんでいるかをみんなで共有できれば、楽しみ方のアピールを提案が自然でできると思う。
- ◆県内でサイクリングする皆さんが増えることは、非常に良いことです。ヨーロッパ他海外ではあたりまえのことです。滋賀県道どこでもサイクリングができるようにするのは現在ではムリでありまして。中長期プランをつくり計画的に実行すれば10年後には可能になるのではと、思います。
- ◆歩道が整備されて自転車が走れるのかかわらず車道を走る人がいますので、自動車を運転しているものはいへん気をつかいますし安全確保のためにも自転車走行ができる旨の看板が必要だと思いますし、ビワイチをひろめる為にもハード面をもっと整備してほしい。
- ◆エコであるし、とにかく琵琶湖と言う観光資源が有りながら地味な滋賀県が県外だけでなく海外にも発信アピールしていただきたい。出来れば琵琶湖一周の国際レースを開催してもらいたい。
- ◆ビワイチの推進等により、滋賀県の良さや観光をPRでき、また観光客の増加につながるかと考えます。このようなことが、滋賀県への旅行、さらに移住、人口増加にもつながると考えます。

ビワイチ(びわ湖一周サイクリング)に関するアンケート結果

★実施時期:平成29年9月18日 (月・祝)10:30-15:00

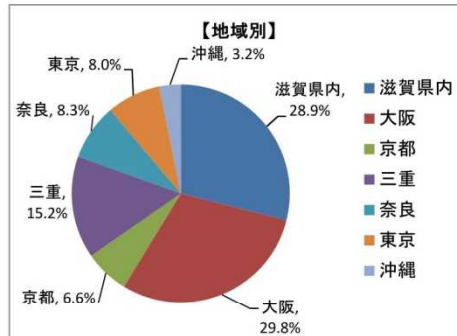
★場所:湖北みずどりステーション

★回答数:28組(個人、グループ含む)

(※設問により未回答の箇所もあったため、設問毎に合計値が合致しない場合あり)

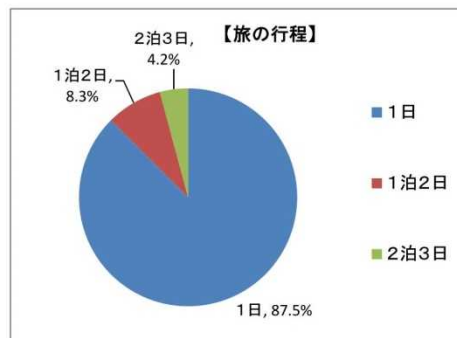
◆あなたのお住まいの地域を教えてください。

	(人)	
	計	割合
滋賀県内	4	28.9%
大阪	8	29.8%
京都	10	6.6%
三重	2	15.2%
奈良	1	8.3%
東京	1	8.0%
沖縄	1	3.2%
計	27	100.0%



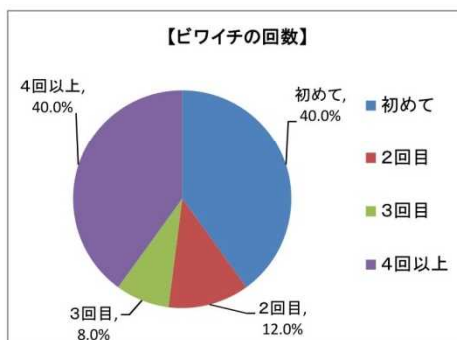
◆今回の旅の行程を教えてください。

	(人)	
	計	割合
1日	21	87.5%
1泊2日	2	8.3%
2泊3日	1	4.2%
計	24	100.0%



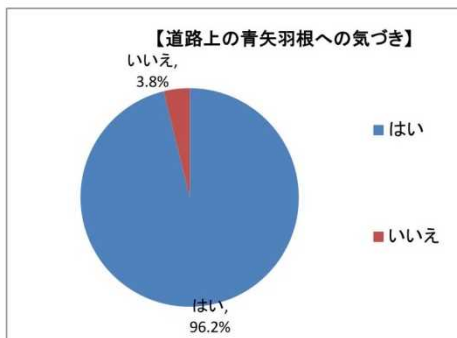
◆ビワイチは何回目ですか。

	(人)	
	計	割合
初めて	10	40.0%
2回目	3	12.0%
3回目	2	8.0%
4回以上	10	40.0%
計	25	100.0%



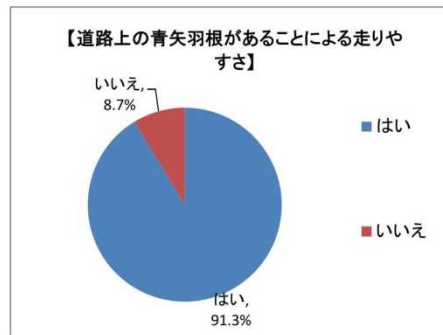
◆道路上の青矢羽根は気付かれましたか。

	(人)	
	計	割合
はい	25	96.2%
いいえ	1	3.8%
計	26	100.0%



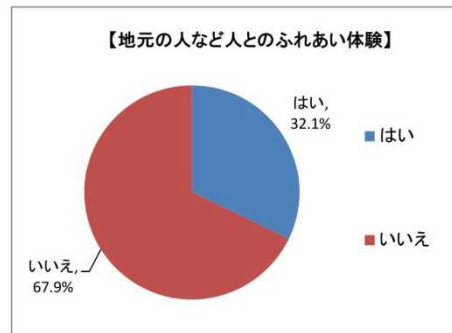
◆道路上の青矢羽根があると、走りやすいですか。

(人)		
	計	割合
はい	21	91.3%
いいえ	2	8.7%
計	23	100.0%



◆地元の人や他のサイクリストなど、人とのふれあいは体験されましたか。

(人)		
	計	割合
はい	9	32.1%
いいえ	19	67.9%
計	28	100.0%



◆走ってみてよかったこと、何度も走ってしまう魅力

- ・湖に波がたって綺麗だった
- ・記念写真がとれたこと
- ・景色が良い(6)
- ・走って気持ちが良い(3)
- ・湖岸緑地のトイレ(あることに安心感)
- ・距離がちょうどよい
- ・プチ達成感がある
- ・水鳥が見える

◆ビワイチサイクリングをさらに楽しむために必要だと思うサービスは

- ・道路の整備
- ・目的地までと〇kmの表示があると励みになる
- ・食べるもの
- ・ボトルへの給水(2)
- ・今で十分楽しい
- ・夏は水と氷。冬はあったかいもの
- ・サイクルラック
- ・屋台など気軽に食べれる環境
- ・自転車を一晩おけるところ
- ・湖岸にキャンプ場
- ・エイドステーション
- ・パンク修理
- ・湖岸を離れるところの道路案内
- ・シャワー、着替えができる場所
- ・レスキュー(5)
- ・顔を洗える低い位置の水道
- ・道案内の地図の道路標示
- ・屋根のある休憩ポイント
- ・レンタサイクルの途中返却システム
- ・自転車の宅配

◆あなたが「ビワイチ」またはびわ湖周辺サイクリングに求めるものは何ですか。

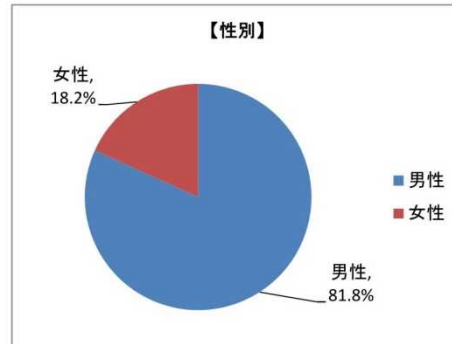
- ・運動(3)
- ・景色のよさ(6)
- ・達成感(8)
- ・グルメ(3)
- ・訓練
- ・フラットな路面
- ・仲間との一体感
- ・歴史文化(2)
- ・リフレッシュ
- ・爽快感

ビワイチ(びわ湖一周サイクリング)に関するアンケート結果

★ 実施時期:平成29年11月3日～5日

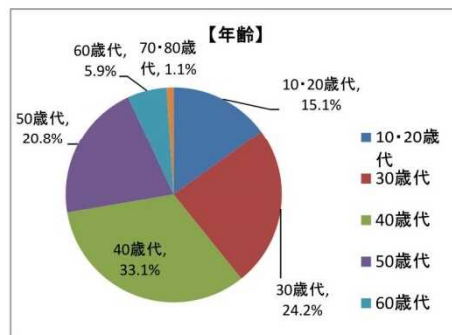
対象者:サイクルモードインターナショナル
 ★ 2017 来場者

★ 回答数:1,432人
 (※設問により未回答の箇所もあったため、
 設問毎に合計値が合致しない場合あり)



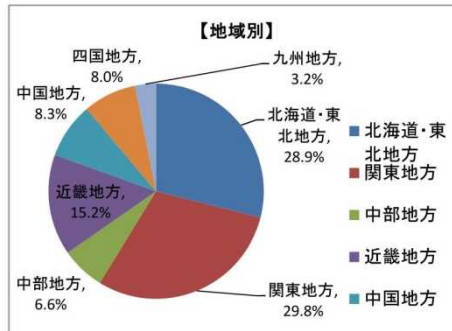
◆あなたの性別と年齢を教えてください。
 (人)

	男性	女性	計	割合
10・20歳代	172	41	213	15.1%
30歳代	262	80	342	24.2%
40歳代	377	91	468	33.1%
50歳代	256	38	294	20.8%
60歳代	76	7	83	5.9%
70・80歳代	14	1	15	1.1%
計	1157	258	1415	100.0%
割合	81.8%	18.2%		



◆あなたのお住まいの地域を教えてください。
 (人)

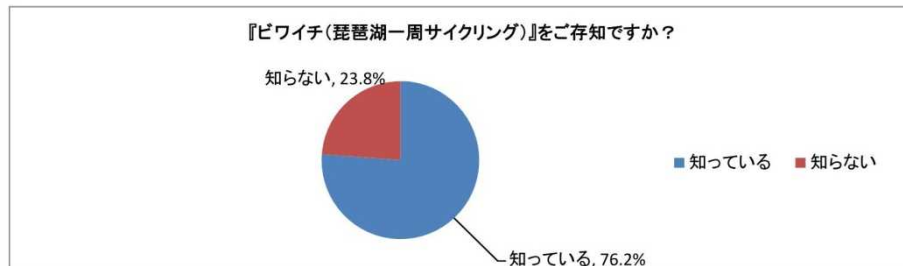
	男性	女性	計	割合
北海道・東北地方	20	4	24	28.9%
関東地方	926	213	1139	29.8%
中部地方	127	23	150	6.6%
近畿地方	69	13	82	15.2%
中国地方	11	1	12	8.3%
四国地方	4	1	5	8.0%
九州地方	5	1	6	3.2%
計	1162	256	1418	100.0%



問1 『ビワイチ(琵琶湖一周サイクリング)』をご存知ですか？
 (n=1408)

- 知っている
- 知らない

	年代別						性別		計	割合
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70・80歳代	男性	女性		
1.	133	254	367	244	68	8	894	177	1071	76.2%
2.	78	87	99	46	16	8	255	80	335	23.8%
計	211	341	466	290	84	16	1149	257	1406	100.0%

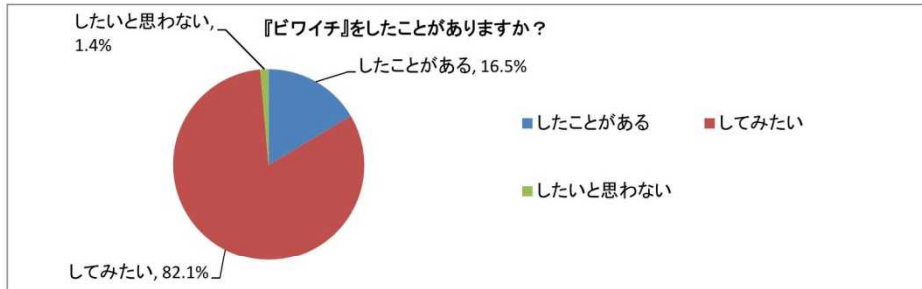


(2) 『ビワイチ』をしたことがありますか？

(n=1397)

1. したことがある
2. してみたい
3. したくない

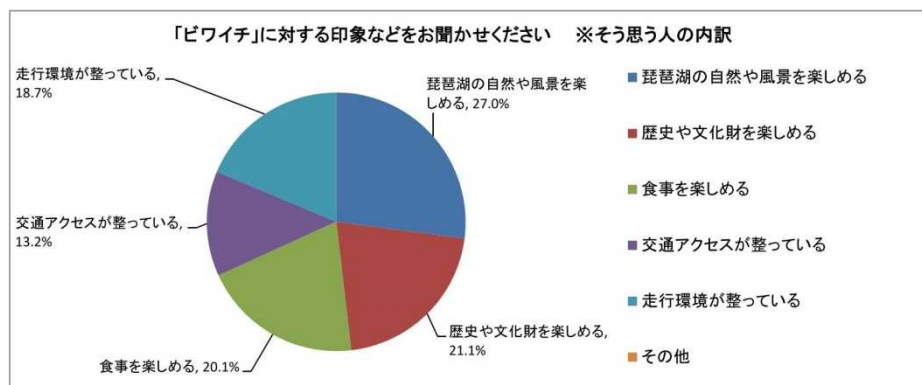
	年代別						性別		計	割合
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70・80歳代	男性	女性		
1.	26	53	84	56	8	4	208	22	230	16.5%
2.	178	277	381	233	69	12	921	226	1147	82.1%
3.	4	7	2	1	4	0	17	3	20	1.4%
計	208	337	467	290	81	16	1146	251	1397	100.0%



(3) 「ビワイチ」に対する印象などをお聞かせください

1. 琵琶湖の自然や風景を楽しめる
2. 歴史や文化財を楽しめる
3. 食事を楽しめる
4. 交通アクセスが整っている
5. 走行環境が整っている
6. その他

	(そう思う人の)年代別						回答		計	割合
	10・20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70・80歳代	そう思う	そう思わない		
1.	206	328	441	282	79	15	1351	6	1351	27.0%
2.	152	232	361	235	61	13	1054	190	1054	21.1%
3.	166	239	330	203	53	11	1002	215	1002	20.1%
4.	92	125	225	157	47	11	657	486	657	13.2%
5.	152	214	312	191	55	8	932	192	932	18.7%
6.	4	14	11	8	1	0	38		38	
計	772	1152	1680	1076	296	58	4996	1089	4996	100.0%



【その他(主な意見)】

- ◆私の周りではビワイチが定着し、年間行事のように年1～2回行われ楽しみの1つ
- ◆補給食などできるポイントが少ない
- ◆最近取り上げられる等が多い印象
- ◆整備されていない所もあるので改善して頂きたい
- ◆1週で達成感がありそう

6. ビワイチ推進総合ビジョン 用語解説

索引	用語	解説
カ行	環境こだわり農業	化学合成農薬・化学肥料の使用量を減らしたり、濁水の流出を防止するなど、琵琶湖をはじめとする環境への負荷を減らす技術を用いて行われる農業のこと。
	環境こだわり農産物	県が定めた基準に基づき、化学合成農薬や化学肥料の使用量を通常の栽培の5割以下に減らすとともに、濁水の流出防止等、琵琶湖をはじめとする環境への負荷を減らす技術で生産され、県の認証を受けた農産物のこと。
	ぐるっと琵琶湖サイクルライン	県の象徴であり日本一の大きさを誇る琵琶湖を一周しながら周辺の自然や歴史、観光地等を楽しむなど滋賀県をまるごと満喫できるサイクリングコースを県と市町で検討し、選定したもの。瀬田唐橋（大津市）の中の島を起終点する全長約193kmあり、今ある道路の中から比較的自転車が安全かつ快適に走行できる琵琶湖周遊道路を選び、初めて一周する人も安心してサイクリングできる道路として推奨している。
	クロスバイク	ロードバイクと比べてやや太めのタイヤとフラットなハンドルバーを備えた舗装路用の自転車の総称。ロードバイクほど軽量ではないが、非舗装の一般道の走行も可能な中庸的性格をもつ。
	ココクール マザーレイク・セレクション	滋賀ならではの資源や素材を活かし、心の豊かさや上質な暮らしづくりといった滋賀らしい価値観を持つ商品やサービスを、自薦・他薦により広く募り、「選び」「魅せる」ことで、その良さを発信し、多くの方に体感いただき、こうした滋賀の商品やサービスのファンとなっていただけのように、平成24年度、滋賀県が新たに始めた取組のこと。 滋賀らしい5つの選定基準、「1.自然との共生、2.三方よし、3.上質な暮らしづくり、4.滋賀らしさ・創造性、5.市場創造性」に基づいて、特に素敵なものを「ココクール マザーレイク・セレクション」として選定・発信している。
サ行	サイクリスト	自転車愛好家。ただし、本ビジョンでは、自転車を利用する人も含めて「サイクリスト」と表現している。
	サイクリング	自転車での走行を楽しむこと。
	サイクルウェア	吸汗速乾性の高いスポーツ素材を使い、自転車に乗ることを想定して縫製されたウェア。硬いサドルにまたがることを前提とし、お尻部分にパッドが入り、空気抵抗を減らす目的で、体にぴったりとしたラインのことが多い。近年は、デザインをアパレルに近付けたカジュアルなウェアや女性向けのワンピースなども人気。

サ行	サイクルサポート ステーション	滋賀プラス・サイクル推進協議会が設置を促進する、トイレ、空気ポンプ、自転車工具、駐輪場所を備えるなどのサービスを基本とした、自転車に乗る人をサポートする拠点（施設）。拠点（施設）によっては、更に多くの自転車向けサービスを行う箇所もある。
	サイクルツアーガイド	自転車旅行における有料のツアーガイド。役割としては、道案内、事物・スポットの解説、安全管理・安全対応、風景の翻訳解説（インタープリティング）を担う。ガイドのためのルートをクリエイティビティし、地域のさまざまな魅力を紹介する。
	サイクルラック	自転車を駐輪する器具。スタンドのない自転車も安定した状態で支えるものが増えている
	サイクルレスキュー	自転車走行中にパンク等のトラブルが発生した時に対応するサービス。トラブルの発生した場所に駆けつけての修理や、最寄りの自転車店等へ搬送など、サイクリングにかかるトラブルの解消を行うサービス。
	魚のゆりかご水田	魚が水田まで自然に上れるような魚道をつくり、魚にやさしい農業を実践している水田のこと。
	滋賀プラス・サイクル 推進協議会	個人の私的な移動手段だけでなく、公共交通との連携など、新しい価値と公共性を付与し、自転車を地域における公共交通体系のひとつとして位置づけていく「+cycle（プラス・サイクル）」構想を実施していくことを目的とし、「環境のため、健康のため、人にやさしいまちづくり」を目指して、平成 24 年 8 月 23 日に設立された団体。学識経験者や自転車関連の団体、運輸・観光などの事業者や自治体などにより構成される。
タ行	シティサイクル	都市部での日常的な移動を想定し設計された実用車。一般的に「ママチャリ」「軽快車」という呼称で呼ばれることが多い。タイヤも比較的太く、リラックスした乗車姿勢で乗ることができ、安定性が高い。カゴ付きのものが多く、日常の交通手段等に多く愛用されている。
	タンデム自転車	複数の座席をもち、複数の乗員が前後一列に乗って同時に駆動できる二輪または三輪の自転車のこと。 滋賀県では、2つのペダルと座席のあるタンデム自転車に、運転者以外の者を1人乗車させることができる※。 ※滋賀県道路交通法施行細則（平成 30 年 4 月 1 日施行）

タ行	チューブ	自転車のタイヤの中に入れて用いるゴム管。チューブにはバルブが付いており、バルブから空気を入れて膨らませて使用する。自動車ではタイヤとチューブが一体になっているものが一般的だが、自転車ではタイヤとチューブは別になっているものが一般的。この部分に穴が開くと、空気が抜けてしまいパンク状態となる。パンクした際には、シティサイクル等では補修が一般的だが、スポーツタイプの自転車の場合、チューブごと交換することが多い。
ハ行	バルブ	チューブに空気を入れる入口。シティサイクルで主に用いられる英式、ロードバイクやクロスバイクで主に用いられる仏式、マウンテンバイクで主に用いられる米式と、3種類の形式があり、対応した空気ポンプが必要。米式バルブはオートバイや自動車のタイヤバルブと同じものである。
	ビワイチ・プラス	県内の豊かな自然や文化等の魅力に触れながら、琵琶湖沿いから離れて内陸部を巡るサイクリングのこと。
	フィッティング (自転車)	スポーツバイクにはサイズがあり、乗り手の身体に合っていることが重要であり、最適な形で乗れるよう、乗り手の股下や手脚の長さ、柔軟性、志向などに合わせ、フレームのサイズに加え、ハンドル～サドル間の距離やサドル高などを、調整していくこと。
	ポタリング	行き先や計画を決め込むのではなく、リラックスして自転車で散策すること、から転じ、のんびりとしたペースで、楽しむ短中距離のサイクリングを指すことが多い、
マ行	マウンテンバイク	太いブロックタイヤ、フラットで幅の広いハンドルバー、ロードバイク・クロスバイクと比べて強力なブレーキ、急坂を登坂可能な低いギア比、衝撃吸収用のサスペンションを前あるいは前後に備えている、悪路走行用のスポーツ自転車の総称。
ラ行	ロードバイク	細く走行抵抗が低いタイヤや、様々なポジションを取れるドロップハンドルを備えた、軽量で高速走行が可能なギア比を持つ舗装路用のスポーツ自転車の総称。